

園児・児童・生徒・教職員数一覧表

【令和元年5月1日現在】

		職員数	3歳児	4歳児	5歳児	計
東	6	園児数	38	33	29	100
		学級数	2	1	1	4
西		園児数				
		学級数				
南第二		園児数				
		学級数				
半田	6	園児数	12	18	21	51
		学級数	1	1	1	3
東野	5	園児数	22	13	20	55
		学級数	1	1	1	3
計	17	園児数	72	64	70	206
		学級数	4	3	3	10

		職員数		1年		2年		3年		4年		5年		6年		支援学級		計	
東	47	児童数	(1)	141	(8)	141	(6)	139	(6)	156	(5)	150	(5)	139		31		866	
		学級数		4		4		4		4		4		4		7		24	
西	27	児童数	(2)	57	(2)	48	(1)	55	(4)	66	(1)	67	(3)	78		13		371	
		学級数		2		2		2		2		2		2		3		12	
南第一	23	児童数	(0)	32	(2)	38	(8)	39	(1)	49	(3)	63	(5)	43		19		264	
		学級数		1		1		1		2		2		1		4		8	
南第二	32	児童数	(1)	79	(2)	86	(3)	97	(4)	93	(0)	74	(1)	98		11		527	
		学級数		3		3		3		3		2		3		3		17	
南第三	23	児童数	(3)	47	(0)	32	(1)	52	(0)	36	(2)	46	(3)	35		9		248	
		学級数		2		1		2		1		2		1		2		9	
北	31	児童数	(2)	94	(4)	78	(0)	84	(4)	85	(4)	73	(2)	69		16		483	
		学級数		3		3		3		3		2		2		4		16	
第七	34	児童数	(1)	64	(2)	84	(4)	68	(2)	98	(1)	74	(5)	95		15		483	
		学級数		2		3		2		3		2		3		4		15	
計	217	児童数	(10)	514	(20)	507	(23)	534	(21)	583	(16)	547	(24)	557		114		3,242	
		学級数		17		17		17		18		16		16		27		101	

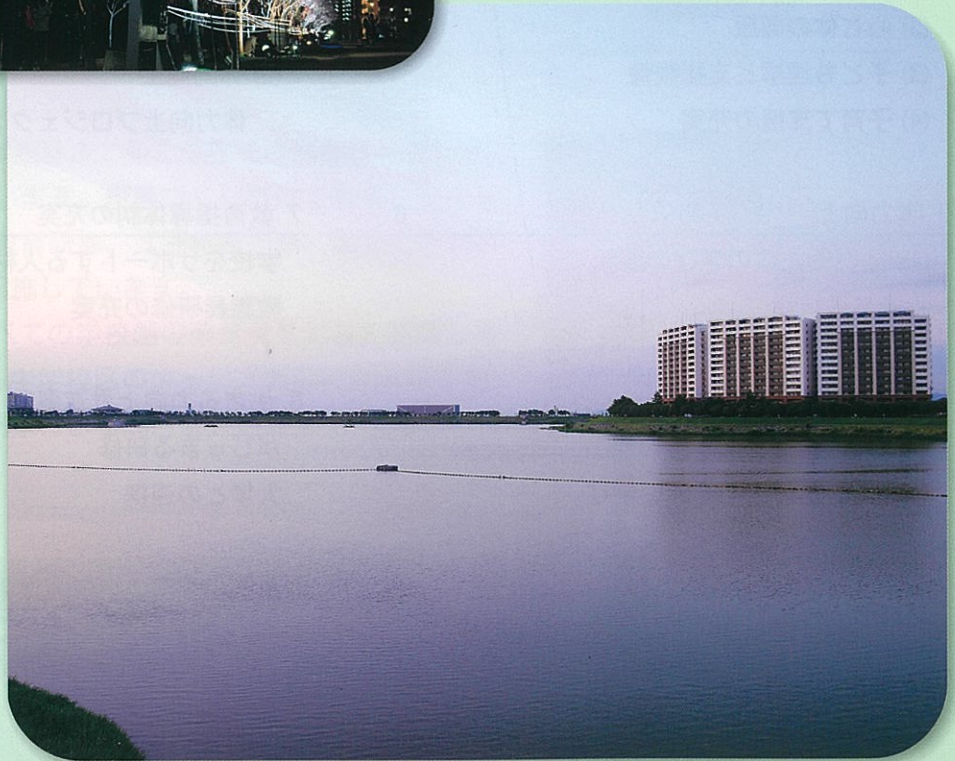
※()内の数は支援学級児童生徒〔内数〕

【市立こども園】

職員数		3歳児	4歳児	5歳児	計	
こども園	37	1号認定	11	19	15	45
		2号認定	24	29	33	86
		学級数	2	2	2	6
計		園児数	35	48	48	131

		職員数		1年		2年		3年		支援学級		計	
狭山	41	生徒数	(3)	223	(5)	183	(8)	198		16		604	
		学級数		6		5		5		4		16	
南	33	生徒数	(4)	173	(6)	165	(2)	143		12		481	
		学級数		5		4		4		3		13	
第三	38	生徒数	(3)	139	(3)	167	(1)	168		7		474	
		学級数		4		5		5		2		14	
計	112	生徒数	(10)	535	(14)	515	(11)	509		35		1,559	
		学級数		15		14		14		9		43	

さやまっ子の夢をふくらませる教育



大阪狭山市教育振興基本計画

基本理念

学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり

めざす子ども像

自分らしくいきいきと学び、さやまを愛する子

『大阪狭山市教育振興基本計画』の基本理念に基づく保育教育指針を掲げ、学校園、保護者、地域の皆様方と連携しながら、これまでの継続発展を図るとともに、新たな教育活動を推進します。

平成 31 年 4 月

大阪狭山市教育委員会

もくじ

平成 31 年度 大阪狭山市保育教育指針	1	5 現代的課題への対応	10
1 学校力の向上	2	防災教育	
(1) 校種間の連携		6 心の力と体力向上	11
中学校区元気あっぷ事業		(1) 豊かな心の育成	
小中連携		道徳教育推進事業	
保幼小連携		人権教育推進事業	12
(2) 学校評価		(2) 生徒指導	
学校づくり応援事業		いじめ問題対策委員会	
学校まるごとパック事業		S C・S S Wの配置	
2 就学前教育・保育	4	適応指導教室	
(1) 非認知能力を育てる保育の展開		(フリースクールみ・ら・い)	
(2) 心と体の健康		交通安全教室	
(3) 子ども理解と支援教育		薬物乱用防止教室	
(4) 子育て支援の充実		(3) 体力向上	
3 学力向上	6	体力向上プロジェクト	
(1) 子ども主体の学びの展開		7 教育指導体制の充実	13
先進地視察		学校をサポートする人材の配置	
I C T活用推進事業		教職員研修の充実	
自ら学ぶノート		8 生きる力向上推進事業	13
校内研修		がじゅまる研修	
主体的・対話的で深い学び		大学との連携	
はなまる学習室			
(2) 英語教育		大阪狭山市内の学校園等所在地・関係連絡先	
英語教育推進事業・スコア型英語検定			
(3) 図書館教育			
読書 e プラン推進事業			
4 子ども理解と支援教育	9		
発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援			
巡回相談員			
通級指導教室			
就学前M I M			
支援教育研修			

さやまっ子の夢をふくらませる教育

めざす子ども像

自分らしくいきいきと学び、さやまを愛する子
一人とつながり、たくましく生き抜く人づくりをめざして—

めざす保育・教育活動のイメージ

学びの環境

- | | |
|------------|---------------------------|
| ・ 集団づくり | どの子ども認められるあたたかい雰囲気 |
| ・ 保育・授業づくり | どの子ども夢中になれる保育や学習の流れ |
| ・ 空間づくり | どの子どもにとっても快適な教室とわかりやすい伝え方 |

学力の向上

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・ 家庭の状況等を踏まえた一人ひとりへの丁寧な指導
- ・ 外国語教育の充実

心の力の向上

- ・ どの子ども安心して学べる集団づくり
- ・ 「考え、議論する」道徳の授業づくり

体力の向上

- ・ 体育活動の活性化やスポーツに親しむ機会を増やす取り組みによる運動習慣の育成
- ・ 命を守る行動力の育成

学校力の向上

取り組みの重点

教職員のチームワークによる、子ども理解に基づく保育や教育の提供
家庭や地域との連携による、アイディアに満ちた学校園づくり
新学習指導要領に基づく「何ができるようになるか」を明確にしたカリキュラムの編成

<新学習指導要領の方向性をふまえて>

保育所・幼稚園・こども園

- ★「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標とし、子どもの育ちが小学校につながる研究を

小学校

- ★低学年の「スタートカリキュラム」高学年の「専科指導」等、なめらかな接続をめざす指導体制を

中学校

- ★「義務教育修了時まで」に求められる資質・能力を明確に、小中学校9年間を貫く指導方法の研究を

12年間を通して、発達の段階や子どもの学習課題等に応じた学びを充実

1. 学校力の向上

(1) 校種間の連携

中学校区元気あっぷ事業

中学校区ごとに幼稚園・こども園・保育園・小中学校の教職員が集まり、分科会を開いて教育の連続性を意識した交流を行っています。学校公開や校区研修会などを通して、互いの取組みのよいところや子どもたちの情報の共有を図っています。



狭山中学校区



南中学校区



第三中学校区

小中連携

中学校の入学説明会では、6年生児童に向けて中学生の先輩たちが中学校生活について紹介したり、部活動体験を行ったりするなどさまざまな取組みを行っています。また、各小中学校の児童生徒代表が集まり「大阪狭山市生徒会サミット」を年2回開催し、各学校がどんな取組みをしているかについて情報交換をしています。また、「いじめゼロをめざすにはどうすればよいか」といった具体的なことを、中学校区ごとに話し合っています。



中学校の入学説明会



第1回生徒会サミット



第2回生徒会サミット

保幼小連携

小学生による読み聞かせやプール交流などの日常的な交流を中心とした保幼小連携の取組みによって、園児には小学校への期待と意欲を、小学生には優しさや思いやり・社会的な能力といった豊かな心を高めています。



小学生による読み聞かせの様子



プール交流



遊びを通した幼小交流

(2) 学校評価

学校づくり応援事業

より良い「学校づくり」に向けて取組みを進める教職員と応援チーム（学識経験者・校長経験者・市教委担当者）とが、日常の学校教育活動を子どもたちの視点から見つめ直して現状と課題を共有し、有効な方策や方向性を見い出します。応援チームの具体的な提案・助言を通して「学校づくり」を応援し、学校運営の改善と発展に応じていきます。



新学習指導要領についての研修会



授業づくりにつながる的確な助言



ICTの活用力を高める研修

学校まるごとバック事業

「めざす子ども像」の実現に向かって、気持ちをそろえて取り組む教職員の姿と、学び育つ子どもたちの姿を、市内教職員や地域の方々にまるごと公開します。発表校が進める研究・実践内容に、中学校区の保幼小中学校園の教職員が学び、互いが切磋琢磨しながら『学校力』の向上を図っていきます。また“学びの連続性”の視点を各中学校区が共有し合うことで、保幼小中の教育活動がつながり、健やかな子どもの成長に結び付く中学校区の教育力を一層高めていきます。



中学校区での議論



対話的な学び



考え議論する道徳



アンブラグドでのプログラミング



学びを広げるICT活用の工夫



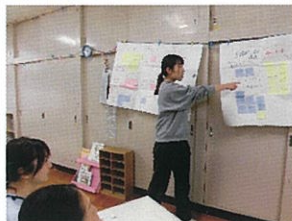
実践と研究が豊かな学びに

2. 就学前教育・保育

(1) 非認知能力を育てる保育の展開

園内研修の拡大

すべての教職員が年1回以上の園内研修を行っています。園内研修は、公立私立の他園の教職員も参加する公開保育とし、保育後の討議会では活発な意見交換や情報交流が行われています。この研修が、教育・保育の質の向上を図るとともに、若手教職員の教育・保育の力量を高めるよい機会となっています。



私立保育園・こども園での公開保育の実施

私立の保育園・こども園では、毎年順番に公開保育を実施しています。幼・小・中の教職員も参加し、意見交換や情報共有を行い、中学校区間の連携を深めています。

3歳児保育の充実

平成29年度より幼稚園で3歳児保育が始まっています。自分でできることがどんどん増え、園の環境の中でやってみたいことがあふれる3歳児です。子どもたちの興味関心を大切に、探索活動を支援する保育をめざします。



英語教育の推進

市立の幼稚園・こども園では、年間30回程度の英語活動を行っています。音楽遊びや表現遊びを通じて英語に出会い、日常的な英語に親しみ、身振り手振りを交えて気持ちを表現する楽しさを体験しています。



(2) 心と体の健康

幼児期の発達段階にふさわしい心育で

3歳～5歳ごろは「自分で決めたことは自分ですりとする自律心と主体性」「行動範囲を広げ好奇心を満足させようとする積極性と自発性」が育つ時です。「できること」だけでなく、「我慢する力」「折り合う力」など、この時期の子どもならではの「心の育ち」を大切に、保育内容や展開、保育環境の工夫と配慮を行っています。

体力向上プランの推進

各園の実態に応じた「体力向上プラン」をたて、年間を通じて意欲的に楽しく続けられる身体づくり、体力づくりに取り組んでいます。



(3) 子ども理解と支援教育

相談の充実

各園では、発達や能力の個人差が大きい就学前の子どもたちに対し適切な対応ができるよう、相談員が専門的な立場からアドバイスをしています。

また、“ぽっぽえん”の「手をつなGO!」では、発達のサポートが必要な子どもに対し、日常生活や園生活がより快適に過ごせるように、一人ひとりに応じて必要な支援を行っています。

教職員研修の充実

事例検討会や参加型研修など、研修の充実を図り、保育者の支援教育に対する資質の向上をめざします。

(4) 子育て支援の充実

2歳児の保育

平成30年度より、幼稚園では、未就園児対象の事業の一つとして、2歳児を対象に週1回程度の親子参加保育を行っています。年度の後半では子どもたちだけの保育も取り入れ、初めての集団保育が経験できるようにと考えています。



預かり保育で子育て支援

預かり保育は、家庭や地域における子どもたちの育ちの機会を補完し、保護者の子育てを支援するために実施しています。これまでの【月曜日～金曜日、保育終了後～午後5時】の時間を、平成30年度からは【午前8時30分～午前9時】に拡大し、子育て支援の充実に取り組んでいます。



大阪狭山市認定子育てサポーターの活用

子育てサポーターとは、子育てや保育経験のある市民を対象に大阪狭山市が子育てサポーターとして認定し、地域で子育て支援活動を展開している方々です。この子育てサポーターを、幼稚園・こども園の「あおぞらひろば」「未就園児事業」「3歳児保育」「絵本の広場」などで積極的に活用し、就学前の教育・保育の充実を図っていきます。



3. 学力向上

(1) 子ども主体の学びの展開

先進地視察

全国学力・学習状況調査で継続的に上位の結果を保ち続けている先進市を、市内の教職員と指導主事が訪問し、学んだことを小・中学校に発信します。授業において、「〇〇なのは、どうしてだろう？」と学習課題を疑問形で示して追究したり、授業の最後に理解状況を図る評価問題を実施したり、振り返りを自分の言葉で表現したりすることで、学力の定着や学習の深まりを図ります。



先進地視察研修報告会の様子

ICT活用推進事業

子どもたちの学習意欲を高めるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりをめざし、各学校にさまざまなICT機器を配備しています。また、プログラミング教育の実施に向けて、学識経験者を招いた研修会や授業の公開、実践交流などを行っています。



電子顕微鏡の活用



プログラミングの授業の様子



アンブレグドでのプログラミング

自ら学ぶノート

子どもたちの自主的な学習習慣の確立をめざして、平成27年度から市内の小学校4年生以上の全児童に、大阪狭山市独自の手作り教材「自ら学ぶノート」を配付し、家庭学習に活用しています。平成30年度からは、大阪府教育庁提供の教材「ことばのちから」も盛り込み、さらに充実した教材になりました。



自ら学ぶノート



取り組む児童の様子

校内研修

子どもが主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりをめざして、各学校において授業研究に取り組んでいます。初任者、5年経験者、10年経験者というように、経験年数に応じて、年間2～4回の授業研究を行うとともに、各学校の研究テーマに基づく校内研修を実施しています。

また、授業後の討議会で子どもの姿を中心に取組みを振り返り、学識経験者や指導主事を交えて、指導方法の研究を推進しています。学校全体をまるごと公開したり、授業力のある教員の授業を模範的な授業として公開したりしています。



各学校における公開授業後の討議会の様子

主体的・対話的で深い学び

次期学習指導要領の全面实施に向け、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が市内の学校で進んできています。平成29年度、南中学校が「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究校」として大阪府の指定を受けて研究に取り組みました。その成果を、市内に広く普及させるため、平成30年度には、「STF実践研究会」を立ち上げ、研修を行いました。



H30年度 STF 実践研究会の様子



H29年度の取組みの様子



はなまる学習室

夏季休業中とその後の隔週土曜日に、市内3か所で学習室を開設しています。参加した中学3年生は家庭学習パートナーの支援を受けて、日々の宿題や授業の復習、テスト対策などの自学自習に熱心に取り組んでいます。



はなまる学習室の様子

(2) 英語教育

英語教育推進事業・スコア型英語検定

児童生徒の英語を使う意欲や自信を育めるよう、小学校5・6年生の外国語活動および中学校の英語科の授業に外国人英語指導助手（ALT）を配置して、指導の充実を図っています。

また小学校では、児童が生きた英語にたくさん触れて慣れ親しむことができるよう、「大阪狭山小学校英語活動支援の会」の指導支援員と担当教員とが連携して授業を行ったり、中学校ALTによる「夏休み英語体験教室」を実施したりしました。中学校では、「スコア型英語検定」を実施し、生徒一人ひとりの英語力の伸びを把握するとともに、授業の工夫改善に役立てています。また希望生徒を対象として、夏季休業中にALTによる補習を実施し、生徒の英語運用能力のさらなる向上をめざしています。



授業改善リーダーによる研修



大学教授による指導助言



夏休み英語体験教室

(3) 図書館教育

読書eプラン推進事業

子どもたちの読書意欲の向上をめざし、「学校図書館司書の全校配置」「蔵書数拡充」「市立図書館からの絵本の貸し出し」「読書eプランコンクール」等を実施しています。

読書eプランコンクールでは、受賞者自身によるプレゼンテーションを行うことで、表現力の育成もめざしています。



アニメーションの様子



読書eプランコンクールの表彰式の様子

4. 子ども理解と支援教育

発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援

平成26年度より、文部科学省の指定を受け、発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援について、医師や学識経験者等の指導を受けながら研究を進めてきました。

平成28年度からは、市内の全ての小中学校で展開されている通級指導や個別指導の担当教員等の専門性向上をめざして、医師や学識経験者等の指導や研修を計画的に実施しながら研究を進めました。事業は終了しましたが、これらの取組みを継続しながら、支援体制のさらなる充実をめざします。

(研究成果)

- ①多層指導モデルMIMやチェックリストを用いて、小学校1年生のすべての子どもたちを対象に支援の必要な子どもの把握に努め、通級指導や個別指導につないでいること。
- ②障がいのある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備に学校全体で取り組むことが、すべての児童・生徒のわかりやすい授業へとつながっていること。
- ③MIM-PMの結果に基づく客観的な子どもの実態把握により、保護者の早期支援への理解が深まったこと。
- ④本市の取組みが文部科学省の評価を受け、文部科学省の事例集やホームページを通じて、全国に発信することができ、他県や他市町からの視察も受け入れ、取組みを紹介できたこと。



視察受け入れ時の様子

巡回相談員

保護者からの希望があった場合には、校内委員会で検討したうえで、巡回相談員が発達検査を実施します。その結果をもとに、学校と家庭が協力しながら適切な対応ができるよう、アドバイスをしています。また、各学校を巡回して、保護者や教員の相談に応じたり、通級担当教員への研修や指導を実施したりしています。

通級指導教室

本市では、これまでの取組みの成果により、平成31年度から全小・中学校で自校通級による指導が展開できるようになりました。通級指導教室では、一人ひとりの課題に応じた指導計画を立て、個別指導を中心に学習活動を行っています。通級指導教室でのきめ細かな指導で子どもの自信が高まり、社会性や学力の向上につながることをめざしています。

就学前M I M

就学前の子どもの実態把握や幼稚園・こども園と小学校の連携を深める取組の一つとして、市内の4つの幼稚園・こども園において、同じ校区の小学校教員が、就学前M I Mの出前授業を行っています。園児たちは「小学校に入ったら、こんなことを習うんだな。」と瞳を輝かせ、小学校の先生の指示に合わせて、大きな声と動作で言葉の学習に励んでいます。



支援教育研修

「子ども理解推進教師育成研修」「支援教育事例研修」「発達障がいを持つ子どもの指導方法」「幼少期の子ども理解と支援」「通級・個別指導教室における指導方法」等、さまざまな研修を行い、教員の専門性の向上に努めています。医師や学識経験者による指導のほか、先進的な取組みをしている学校見学など、指導方法や支援体制づくりなどについて、具体的に学べる方法を工夫して実施しています。近年、他地区から視察の申し込みもあり、本市の取組みを発信する機会にもなっています。



5. 現代的課題への対応

防災教育

災害発生時の救助活動の担い手を育成するため、大阪狭山市消防本部と防災・防犯推進室の協力のもと、中学3年生を対象に「安全・安心スクール」を実施しています。また、小学校では防災訓練時に児童引渡し訓練を実施する等、PTAや自治会、地域見守り隊と連携した取組みが進められています。



中学校での安全・安心スクール



教職員の救命救急講習



小学校での引き渡し訓練

6. 心の力と体力向上

(1) 豊かな心の育成

道徳教育推進事業

学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、「読む道徳」から「考える・議論する道徳」への転換を、各小・中学校の道徳教育推進教師を中心に進めています。また、狭山中学校が大阪府の道徳教育推進事業の指定を受け、道徳科のねらいを踏まえた効果的な指導方法や評価方法について、好事例の収集や教材の研究を進め、その成果を市内へ積極的に普及しています。



道徳の授業後の研究協議会

人権教育推進事業

人権教育では、児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができることをめざしています。各学校では、すべての教育活動を通じて、相手の考えや気持ちを想像する力や共感的に理解する力、互いに分かりあうためのコミュニケーション能力、人間関係を調整する能力や問題を解決する能力などの育成に取り組んでいます。南第一小学校は大阪府の人権教育推進事業の指定を受け、人権総合学習の研究を進めています。その研究をさらに進め、成果の普及を図ります。



人権総合学習の様子

(2) 生徒指導

いじめ問題対策委員会

いじめの防止等に取り組むため、弁護士や医師、学識経験者、心理や福祉の専門家による「いじめ問題対策委員会」を教育委員会の附属機関として設置し、いじめ防止に関する研究や対策について検討を行うとともに、重大事案が生じた場合は調査など緊急対応を行います。

SC・SSWの設置

全国の小中学校では、不登校やいじめ、暴力行為等の問題行動の件数が増加傾向にあり、教員個人の頑張りだけでは解決できない問題が増えています。このような中、「子どもと向き合い、指導する時間を確保するには、専門スタッフや地域の人たちとの連携、役割分担が欠かせない」という考えの下、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、学校体制の強化を図っています。

◆スクールカウンセラー（SC）

児童生徒及び保護者、教職員からの相談、教職員等への研修、緊急対応における児童生徒の心のケア等を担います。

◆スクールソーシャルワーカー（SSW）

生活の視点で子どもに関わるすべての背景や状況を視野に入れて判断し、SCや関係機関と連携しながら、ケース会議を通じてその方策を考え、子どもの取り巻く環境の改善を図ります。また、より一層の効果的な活用に向けて、教職員対象の研修を年4回開催しています。

適応指導教室（フリースクールみ・ら・い）

学校に行けない、登校するエネルギーが十分にない、そんな子どもたちの居場所として適応指導教室「フリースクールみ・ら・い」があります。元教員と指導員、学生サポーターが指導に当たります。



フリースクールみ・ら・いでの活動の様子（学習・調理実習・野外活動）

交通安全教室

市内の小学校1・4年生と中学校1年生を対象に、黒山警察署と都市整備部土木グループの方による交通安全教室を実施しています。実技を交えた指導で、交通事故等防止の啓発を行っています。



小学校での交通安全教室の様子

薬物乱用防止教室

自分を守るための知識や技術を身につけるために、黒山警察署の方などにより、全小中学校で薬物防止教室を実施しています。実際の場面を想定した指導で、子どもたちの意識を高めていきます。



（3）体力向上

体力向上プロジェクト

子どもの体力の課題に対応するため、毎年全児童生徒を対象に体力テストを実施し、分析結果を学校独自の体力向上の取組に反映させています。また、体力向上と集団づくりを目的として、長縄による「全員跳び」と「8の字跳び」に取り組む「さやまチャレンジランキング」を実施しています。



各学校の体力づくりの取組みの様子

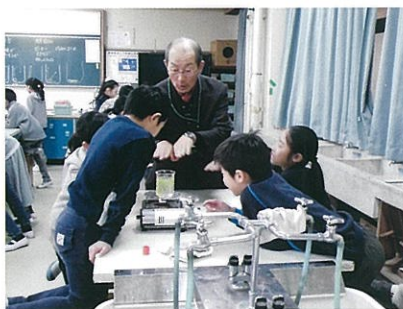
7. 教育指導体制の充実

学校をサポートする人材の配置

さやまっ子ティーチャーや学習支援チューターを小中学校に配置しています。さやまっ子ティーチャーは主に授業のサポート、学習支援チューターは主に放課後や長期休業中の子どもたちの学習を支援しています。また、理科支援員・体育支援員・部活動支援人材は各学校の状況に応じて、授業の準備や実技のサポートに関わり、学習活動の充実を図っています。



さやまっ子ティーチャー



理科支援員



部活動支援人材

教職員研修の充実

学校教育における様々な課題解決と新たな研究の推進をめざして、研修会を計画的に実施しています。授業づくりだけでなく、フィールドワークや体験型の人権教育研修、支援教育研修、生徒指導研修など様々な分野での研修を実施しています。

毎年夏季休業中に市内すべての学校園の教職員を対象に実施しているタイムリー研修では、各中学校区のキャリア教育の実践発表や、喫緊の教育課題に関する専門家による講演会を実施しています。



タイムリー研修

8. 生きる力向上推進事業

がじゅまる研修

大阪教育大学教授を講師に招いて、学校（が）や授業（じゅ）のことを丸（まる）くなって語らい合いながら、小・中学校に勤務する経験の浅い先生方が、毎回効果的な集団づくりや授業づくりのポイントについて学んでいます。研修終了後にはカフェタイムを設け、管理職・指導主事を交えて情報交換や相談を行っています。



大学との連携

市教委と大学がお互いの研究を一層充実・発展させることを目的に、大阪教育大学等の大学と連携協力に関する協定を結んでいます。学校の教育活動への学生派遣や教育実習の受け入れ、市教職員研修の講師派遣等、様々な形で連携協力を進めながら、教員の育成と学校教育活動の充実に取り組んでいます。

大阪狭山市内の学校園等 所在地



0 200m

関係連絡先

小 学 校

東小学校	狭山三丁目 2497 番地の 1 ☎365-0044 http://higashi-es.osakasayama.ed.jp/
西小学校	今熊一丁目 22 番地 ☎366-1004 http://nishi-es.osakasayama.ed.jp/
南第一小学校	西山台三丁目 2 番 1 号 ☎365-3437 http://m1-es.osakasayama.ed.jp/
南第二小学校	大野台三丁目 23 番 1 号 ☎366-1838 http://m2-es.osakasayama.ed.jp/
南第三小学校	西山台六丁目 19 番 7 号 ☎366-0075 http://m3-es.osakasayama.ed.jp/
北小学校	池尻北二丁目 20 番 7 号 ☎366-0072 http://kita-es.osakasayama.ed.jp/
第七小学校	東茱萸木二丁目 865 番地 ☎366-0033 http://dai7-es.osakasayama.ed.jp/

中 学 校

狭山中学校	狭山四丁目 2272 番地の 2 ☎365-0071 http://sayama-jh.osakasayama.ed.jp/
南中学校	大野台三丁目 2 番 1 号 ☎365-7200 http://minami-jh.osakasayama.ed.jp/
第三中学校	茱萸木二丁目 397 番地 ☎366-0082 http://dai3-jh.osakasayama.ed.jp/

子育て支援センター（ぽっぽえん）

西山台三丁目 2 番 1 号 ☎360-0022

子育て支援・世代間交流センター（U.P.っぶ）

狭山四丁目 2303 番地の 2 ☎(子育て交流ひろば)360-4320
☎(世代間交流ひろば)360-4321

フリースクールみ・ら・い

狭山三丁目 2531 番地の 1 ☎368-0909

幼稚園・認定こども園・保育園

東幼稚園	狭山三丁目2555番地の1	☎365-0124	http://www.city.osakasayama.osaka.jp/ 施設一覧(子育て・教育)
半田幼稚園	半田二丁目269番地	☎367-1823	
東野幼稚園	東野中二丁目22番地	☎366-1663	
こども園 (0～3歳児施設) (4～5歳児施設)	西山台六丁目19番5号 西山台六丁目19番12号	内線 321 ☎366-0080 ☎366-0076	
山本こども園	山本中353番地の2	☎360-7000	http://www.mitsuhsa-fukushikai.jp/yamamoto.html
大野台こども園	大野台三丁目23番1号	☎366-8957	http://kansyukai.or.jp/onodai.html
つぼみこども園	東茱萸木三丁目2283番地の1	☎367-3344	http://kansyukai.or.jp/tsubomi.html
池尻保育園	池尻中一丁目12番8号	☎367-2020	http://www.mitsuhsa-fukushikai.jp/ikejiri.html
きらり保育園	金剛二丁目13番16号	☎366-3707	http://www.mitsuhsa-fukushikai.jp/kirari.html
りんぴー保育園	池尻北二丁目20番23号	☎365-8808	http://hoiku-lumbini.org/
花梨つばさ保育園	半田五丁目215番地の1	☎366-0283	http://www.julien.or.jp/shisetsu/hoiku/index7.php
池尻なな保育園	池尻中一丁目35番41号	☎290-7731	http://www.mitsuhsa-fukushikai.jp/ikejiri-nana.html
大谷さやまこども園	今熊一丁目50番地	☎349-6084	http://www.ohtani-kinder.ed.jp

さやまの支援教育

～一人ひとりのニーズに応じた教育をめざして～

支援教育とは・・・

すべての子どもが学校園の生活の中で自分らしさを発揮し、成長できるよう、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を学校全体で行う教育のことです。大阪狭山市の全ての学校園において、取組みを推進しています。

支援教育の充実のために

～障害者差別解消法が施行されました～

- ノーマライゼーションの理念に基づき、これまでの支援教育の取組みを継承・発展させ、すべての障がいのある子どもの社会参加と自立をめざす指導の強化を図ります。
- 支援教育コーディネーターを中心に、全教職員による校内支援体制を充実させるとともに、互いに認め合える集団づくりを促進します。また、一人ひとりの障がいの状況や保護者の願い等を的確に把握した上で、「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、合理的配慮によるきめ細かな指導に努めます。
- 授業のユニバーサルデザイン化を積極的に推進し、基礎的環境整備を充実することで、すべての児童生徒がわかる喜びを実感できる授業づくりを推進します。
- 子どもネットワーク協議会をはじめとした関係機関との連携を通じて、乳幼児期からの継続的な相談・支援体制の充実を図るとともに、就学にあたっては、個々の教育的ニーズや思いを尊重し、就学推進委員会および保健・医療・福祉・労働等の関係諸機関との連携の強化に努めます。

大阪狭山市教育委員会

平成31年4月

障がいをも理由とする差別の解消の推進に関する法律

障害者差別 解消法

平成28年4月1日施行

この法律は、障がいのある人への差別をなくすことで、障がいのある人と障がいのない人がともに生きる社会をつくることをめざしています

行政機関等（学校を含みます）では、

- 障がいを理由とした不当な差別的取扱いが禁止されます。
- 障がいのある人に対して、合理的配慮を行う義務があります。

★「障害者差別解消法」と、「ともに学び、ともに育つ」教育がめざすものは同じもの

大阪府ではこれまでも、共生社会の実現に向けて、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図り、すべての子どもが互いを尊重し高め合える「ともに学び、ともに育つ」教育を進めてきました。「障害者差別解消法」と、大阪府が進めてきた「ともに学び、ともに育つ」教育がめざすものは同じです。

これまでの取組みを大切にしながら、各学校で「障害者差別解消法」に則った適切な対応を行い、共生社会の実現に向けての取組みを一層進めていきましょう。

（１）障がいを理由とした 不当な差別的取扱いとは

障がいがあることで正当な理由なく教育の機会の提供を拒否したり、場所・時間帯などを制限したり、障がいのない子どもに対しては付さない条件を付したりするような行為は、不当な差別的取扱いとして禁止されます。

●●● 不当な差別的取り扱いとなりうる例 ●●●

- ・ 障がいがあることを理由に受験を拒否すること
- ・ 障がいがあることを理由に入学を拒否すること
- ・ 障がいがあることを理由に授業や部活動への参加を拒否すること
- ・ 障がいがあることを理由に校外での教育活動への参加を拒むことや、これらを拒まない代わりとして正当な理由のない条件を付すること



(2) 合理的配慮とは

障がいのある子どもやその保護者から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合には、社会的障壁を取り除くために、負担が過重でない範囲で、必要で合理的な配慮（合理的配慮）を行います。

合理的配慮の例

- ◆物理的環境への配慮や人的支援の配慮
- ◆意思疎通の配慮
- ◆ルール・慣行の柔軟な変更

教室での板書は、読み上げながら行う

鈴入りボールでボール運動

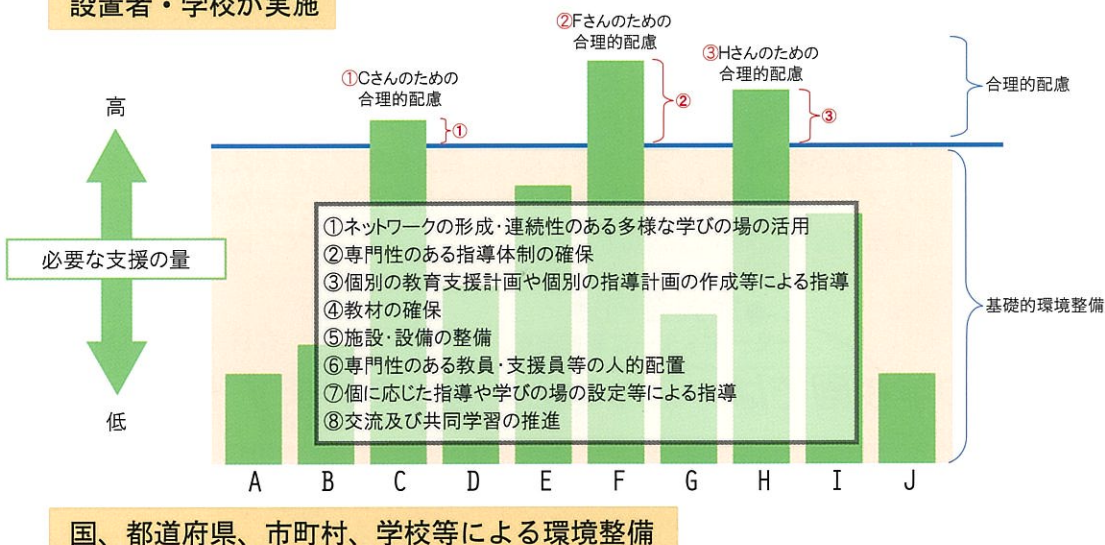
ルビうち

(3) 合理的配慮と基礎的環境整備

合理的配慮の基礎となる環境の整備を「基礎的環境整備」といいます。「基礎的環境整備」を進めるに当たっては、ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めることが重要です。教室環境のみならず指導法や集団づくりも含めた環境を整えることにより、すべての子どもにとって学びやすい授業づくりを進めます。

★合理的配慮と基礎的環境整備の関係

設置者・学校が実施



(4) 合理的配慮の検討に当たって

ポイント

本人・保護者と学校園が、丁寧に話し合うことが大切です。学校園として、組織的な相談体制を整備しましょう。

◆参加する機会を保障する

入学時には、子どもや保護者の了解を得たうえで校種間での引継ぎを行い、継続的な支援ができるように努めます。

◆聞き、話し合う

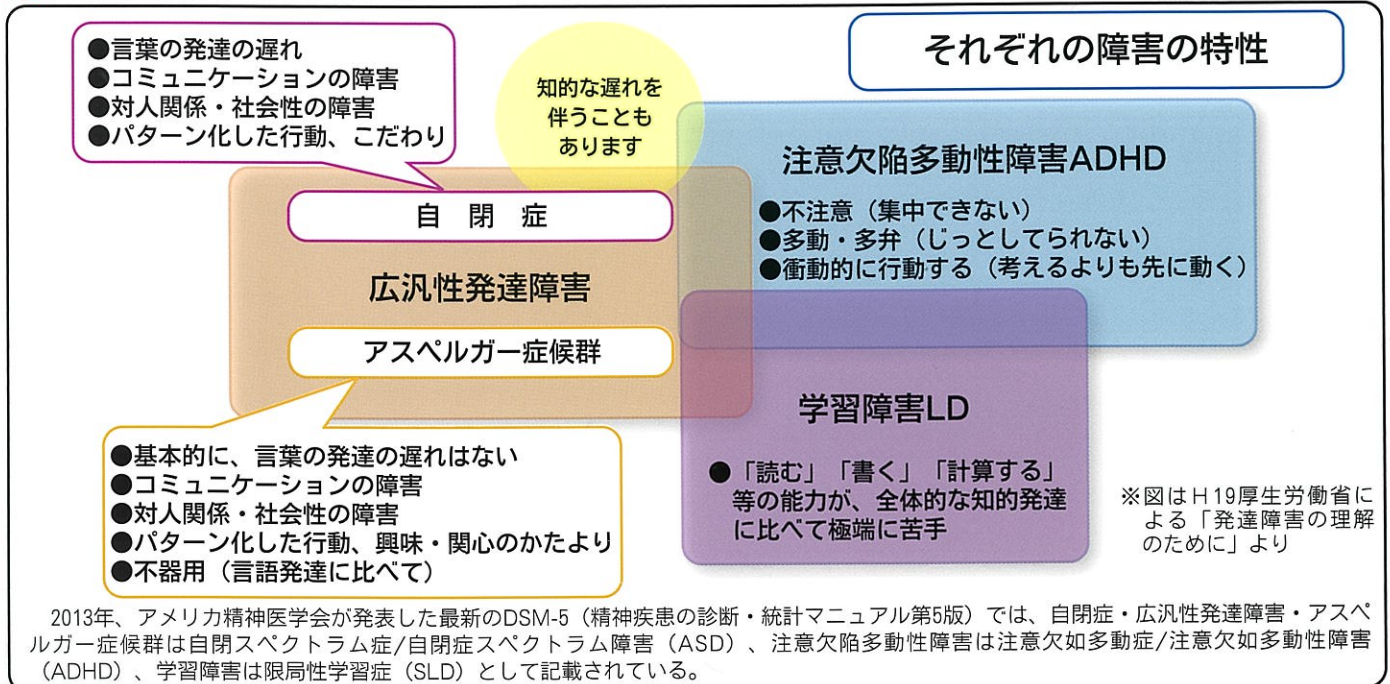
求められている対応ができない場合でも、代替手段がないか、今できることは何かなどを組織的に検討し、子どもやその保護者に伝え、共通理解を図ります。

◆柔軟に対応する

子どもの発達や周囲の環境の整備・変化等により、必要とされる合理的配慮は変わるので、定期的に見直すとともに、柔軟に対応していくことが求められます。

発達障がいの理解を深めるために

◎発達障がいについて



子どもがかかえる困難に気づくことが支援のスタートです！

どんなことで、困っているの？



- 持ち物の整理ができなくて困っている
- 読んだり、書いたり、計算したりするのが難しくて、困っている
- ことばで相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりするのが難しくて困っている
- リズムに合わせた運動や文房具の扱いなどがうまくできなくて、困っている
- 状況の変化に対応した気持ちの切り替えができなくて、困っている

◎大阪狭山市の学校園では、こんな工夫をしています！

「当番の仕事」をするとき

- ・仕事の順序をわかりやすく示す
- ・片づけが終わったら、ほめる

「予定変更」のとき

- ・変更の理由をわかりやすく伝える
- ・「〇〇したかったよね」と子どもの立場で共感し、がまんできたことを評価する

「話す」「聞く」とき

- ・絵や写真、文字、ジェスチャーなど、視覚支援を行う
- ・指示は、短く具体的に少しずつ伝える

「運動」や「ゲーム」をするとき

- ・約束やルールをはじめに確認する
- ・がんばろうとしたときなど、結果ではなくその過程を評価する



「読む」「書く」とき

- ・文字やマス目を大きくする
- ・一行がわかりやすいように示したり、色を変えたりする
- ・読みの流暢性を高めるMMM指導*を小学校低学年の全児童に実施する

授業のとき

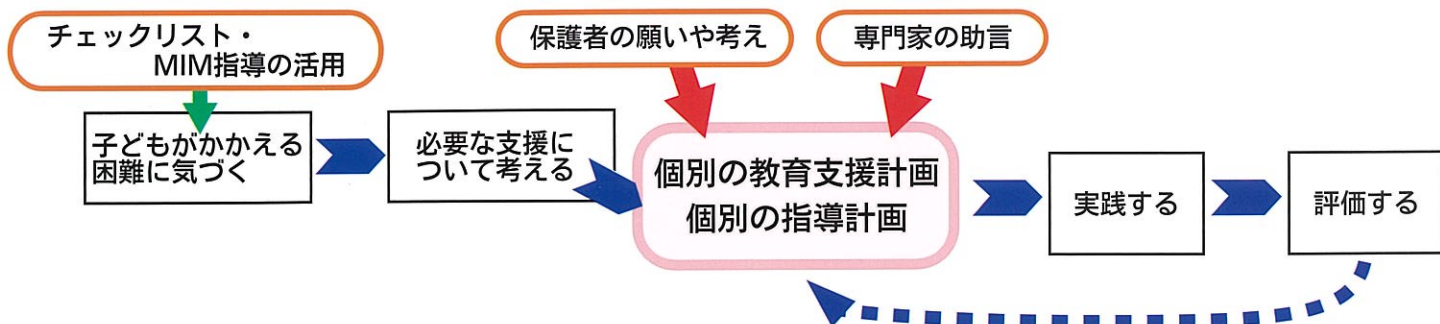
- ・めあてを明確にし、1時間の見通しが持てるようにする
- ・子どもが活動を選択できる場面を入れる
- ・短い時間で活動を区切り、意欲が持続するように工夫する
- ・「立つ」「体を動かす」などの活動を入れる
- ・ICT機器の活用などによる視覚支援を取り入れる
- ・学習環境を整備し、集中しやすいようにする

*MMM指導（多層指導モデル）

MMM指導は、小学校低学年で、すらすら文章が読めるように、小さい「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等特殊音節を含む語を確実に習得することをめざす指導法です。定期的にチェックしながら、つまづきを早期に発見し、適切な支援を行うことが、学力を伸ばすことにつながります。

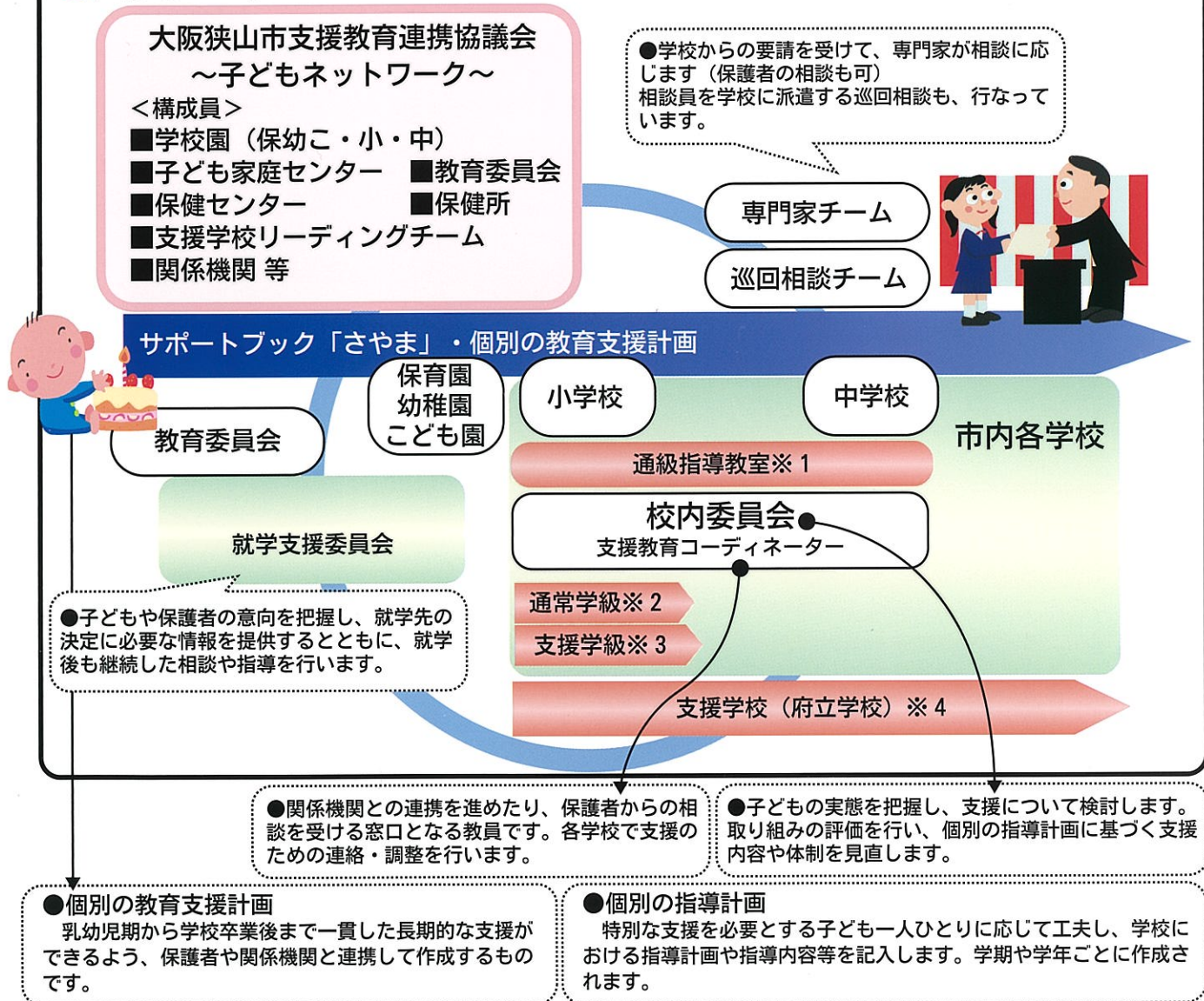
一人ひとりのニーズに応じた支援のために

<各学校の支援の流れ>



◎大阪狭山市の支援教育推進体制

※1～4の説明は、裏表紙に記載されています。



◎教員の専門性を高めるために

- ★発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業（文部科学省指定 H26～29）
- ★通常の学級における発達障がい等支援事業（大阪府教育委員会指定 H25～26）
- ★子ども理解推進教師研修（子どもの発達に関する専門性の高い教員の育成） 他

大阪狭山市教育委員会では、文部科学省や大阪府教育委員会の指定を受けて、教員の専門性を高める事業や研修会を積極的に実施しています。

発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

大阪狭山市では、平成26年度から文部科学省の指定を受け、研究に取り組みました。

研究テーマ

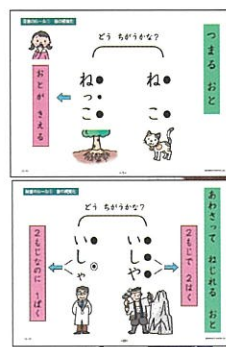
発達障がいのある子どもに配慮した授業づくり・集団づくり

～MIM指導の活用によるつまずきの早期発見と、どの子ども理解しやすい指導方法の工夫～

目的

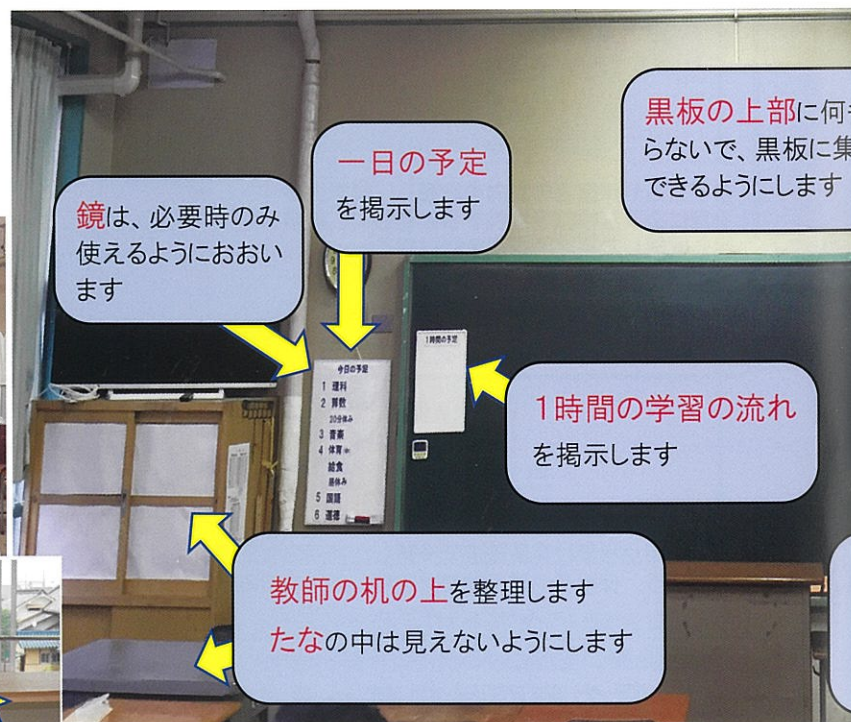
- MIM-PM（子どもの伸びを捉え指導につなげるアセスメント）と文部科学省のチェックリスト等を使って、市内の全小学校1年生の子どもの実態を把握します。
- 読みに課題が見られた子ども（3rdステージに該当する子ども）全員に対して、特化した指導を行います。
- 学級全体の習得度を把握し、指導の工夫改善に活かします。
- 全小学校に設置している通級指導教室における個別指導を充実して早期支援を図ります。
- どの子どもわかりやすい授業を展開するために、ユニバーサルデザインの視点を考慮した基礎的環境整備を進めます。

具体的な取組み



MIMのルール説明カード

MIM指導を1年生全員に実施します



鏡は、必要時のみ
使えるようにおおい
ます

一日の予定
を掲示します

黒板の上部に何
らないで、黒板に集
できるようにします

1時間の学習の流れ
を掲示します

教師の机の上を整理します
たなの中は見えないようにします

タイムタイマーで、時間の流れを示し、見通しをもてるようにします

MIM-PMと文部科学省
チェックリストでつまずき
を把握します

通級指導教室などで、
課題を克服する指導を
します

集中できる教室環境を
整え、1時間の授業の
流れを工夫します

さらなる取組みの充実をめざして

1. 保護者全体への発信

保護者と学校が共通理解を図りながら取り組むことが大切であるという観点で、発信方法を工夫します

2. 集団づくり

集団において、それぞれの子どもが役割を果し活躍する場面、集団の中で他から認められる場面を意識的に作り、自尊感情や自己有用感を高める指導と評価を行います

3. 学校としての「スタンダード※」を構築

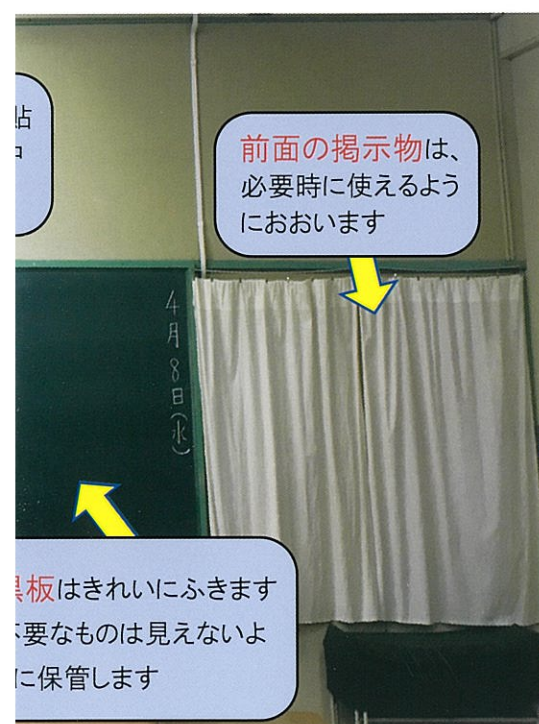
※「スタンダード」…すべての子どもにとって、生活しやすく学びやすい環境を提供するための規準

- ◆ みんなで理解し、みんなで育てる体制を築きます
- ◆ 教室環境・学習や生活のきまりなど、学校として統一し、一貫性のある学級経営をします
- ◆ 話し方、指示や声かけ、板書やノートなど、どの子にも分かる授業づくりを工夫します
- ◆ 集団・個別それぞれの場面での、特性に応じた指導・支援を推進します



おおさかさやま学校園教職員の実践10か条（関連項目）

- 1 条. 子どもの特性を理解し、小さな成長に気づき、褒めて自信をつけます
- 4 条. どの子も活躍できる場をつくります
- 5 条. 教職員チームの一員として、気持ちをそろえて取り組みます



前面の掲示物は、
必要時に使えるよう
におおいます

黒板はきれいにふきます
必要なものは見えないよ
に保管します



通級指導教室

一人ひとりに応じて、集中力やソーシャルスキルを高めるプログラムを用意し、きめ細かく指導を行います



MIM指導につながることばの
学習を就学前の子どもたちに
実施します



どの子にもわかる喜びが実感
でき、自己肯定感が高まり、さ
らなる成長へとつながります

※ 1 通級指導教室

通常の学級に在籍し、週1～3時間程度別室で、自立活動の指導を行います。H31年度より市内の全小・中学校に設置しています。

※ 2 通常の学級

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組み、教科によっては、少人数指導やチームティーチングを行っています。支援が必要な子どもには、個別の指導計画を立てて指導します。

※ 3 支援学級

障がいの種別ごとの少人数学級で、子ども一人ひとりに応じた教育を行います。市内の全小・中学校に設置しています。

※ 4 支援学校

専門性を生かした教育を行う学校です。近隣では、富田林、藤井寺、羽曳野、大阪南視覚支援、堺聴覚支援等の支援学校があります。

心配なことや不安なことがあれば相談してください

大阪狭山市

子育て支援グループ（市役所内）

TEL：366-0011（内線314）

- ・0歳から18歳までの子どもとその家族等の相談全般

大阪狭山市保健センター

TEL：367-1300

- ・健康や発育に関する相談

子育て支援センター（ぽっぽえん）

TEL：360-0022

- ・子育て・発達に関する相談

基幹相談支援センター（市役所南館1階）

TEL：365-1144

- ・障がい児・障がい者の生活相談

学校教育グループ（市役所内）

TEL：366-0011（内線809）

- ・就学相談、教育相談全般
- ・巡回相談の実施

フリースクールみ・ら・い

TEL：368-0909

- ・進路選択支援相談
- ・特別教育相談



大阪府

大阪府富田林子ども家庭センター

TEL：0721-25-1131（代）

- ・子どもの問題や発達に関する相談

大阪府富田林保健所

TEL：0721-23-2683

- ・保健師等による専門的な相談や支援サービスの提供

大阪府教育センター「すこやか教育相談」（電話、面接及びEメールによる相談）

子どもからの相談（すこやかホットライン）TEL：06-6607-7361 sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp

保護者からの相談（さわやかホットライン）TEL：06-6607-7362 sawayaka@edu.osaka-c.ed.jp

教職員からの相談（しなやかホットライン）TEL：06-6607-7363 sinayaka@edu.osaka-c.ed.jp

平日の相談時間以外、土、日、祝日の相談対応「すこやか教育相談24」TEL：0120-0-78310

大阪狭山市近くの支援学校（府立学校）

■富田林支援学校 TEL：0721-34-1675

■藤井寺支援学校

TEL：072-973-1313

■羽曳野支援学校 TEL：072-958-5000

■大阪南視覚支援学校

TEL：06-6693-3471

■堺聴覚支援学校 TEL：072-257-5471

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市狭山1丁目2384の1 TEL：072-366-0011（代）



大阪狭山市

平成31年度（令和元年度）

**全国学力・学習状況調査における
結果と分析の概要について**

大阪狭山市教育委員会

はじめに

大阪狭山市教育委員会は、市の教育施策を推進するとともに学校における指導方法の工夫改善を図るため、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果と分析を公開します。

本市では、「大阪狭山市教育振興基本計画」に基づく保育教育指針「さやまっ子の夢をふくらませる教育」を掲げ、「自分らしくいきいきと学び、さやまを愛する子」の育成に取り組んでいるところです。各校においても、新しい学習指導要領の全面实施に向けて、子ども主体の授業づくりや集団づくりを積極的に進めています。

今年度も、調査の結果とその分析を示すことによって、学校・保護者・市民の皆さまと成果や課題を共有し、子どもたちの確かな学力を育む取組みをさらに進めていきたいと考えています。

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査について

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等の協力を得て実施するものです。

1. 調査の概要

調査実施日 平成31年4月18日（木）

（1）調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査対象

○小学校第6学年 ○中学校第3学年 （原則として全児童生徒）

（3）調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題。

①	②
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 「朝食を毎日食べていますか」「読書は好きですか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」 など	指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」「ICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか」 など

(4) 平成31年4月18日に調査をした学校・児童生徒数

	対象学校数	参加学校数	参加児童・生徒数
大阪狭山市立小学校	7校	7校(100%)	534人
大阪狭山市立中学校	3校	3校(100%)	482人

2. 調査結果の取扱いについて

子どもたちの学力を高めるために、ご理解をお願いします。

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。
- 本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。
- 本調査には、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

3. 分析の方法

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)の分析について

- 結果や課題の根拠を分かりやすくするために数値やグラフを用いて示しています。
- 国語、算数・数学について、問題に見られる成果と課題を正答率や無解答率とともに示しています。
- 今後の指導方法の工夫などについて、質問紙調査との関係で示しています。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査について

生活習慣や学習環境は、学力と密接な関係があり、学力の向上を図るためには家庭と学校が連携して取り組む必要があります。

本市では、平成18年度に「おおさかさやま 家庭教育指針 家庭教育への10(9+1)の提言」を発信し、家庭とともに取組みを進めてまいりました。

本調査の分析に当たっては、その成果と課題を把握するとともに、今後さらに取組みを推進できるよう、提言と関連のある項目について、まとめました。

さらに本市は学力向上の取組みの中心に「授業改善」を置いている点から、質問紙と授業との関連も示しています。

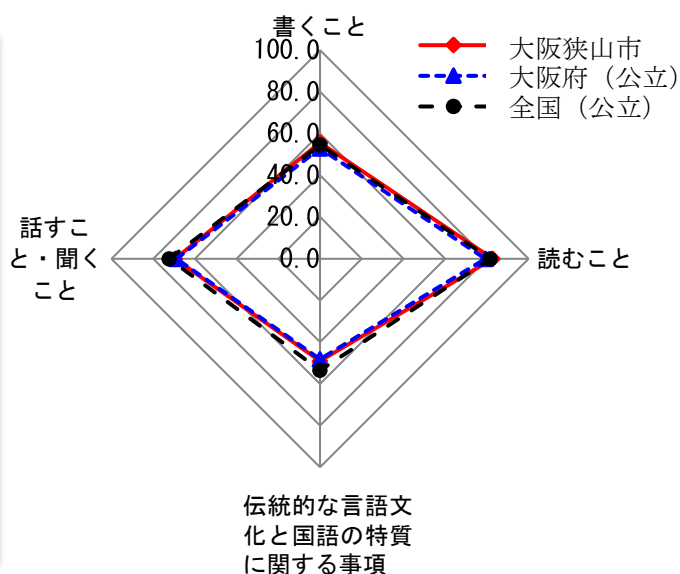
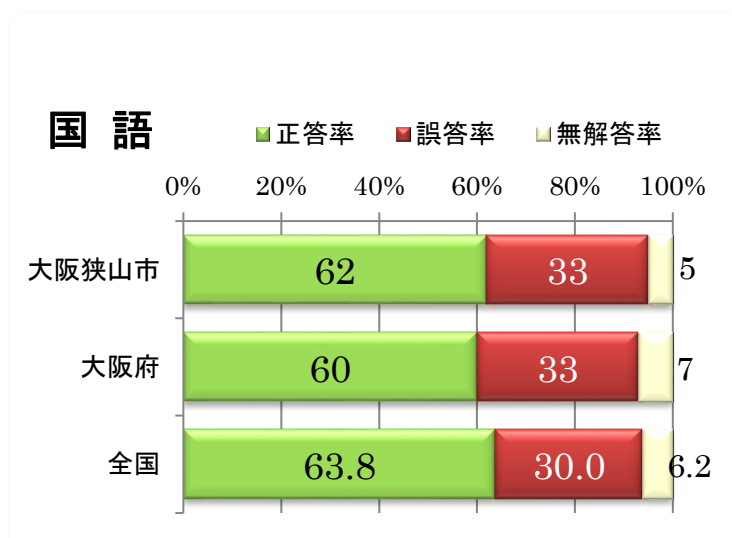
(3)各学校の分析について

学校ごとに、成果や課題を分析し、教育活動の改善に活かしています。

■これまでの学校における取組みをふり返り、今後の指導改善に活かすよう学校全体で取り組んでいます。

■成果と課題、今後の取組み方針などについて、各学校と教育委員会が話し合い、共通理解を深めています。

1. 小学校国語



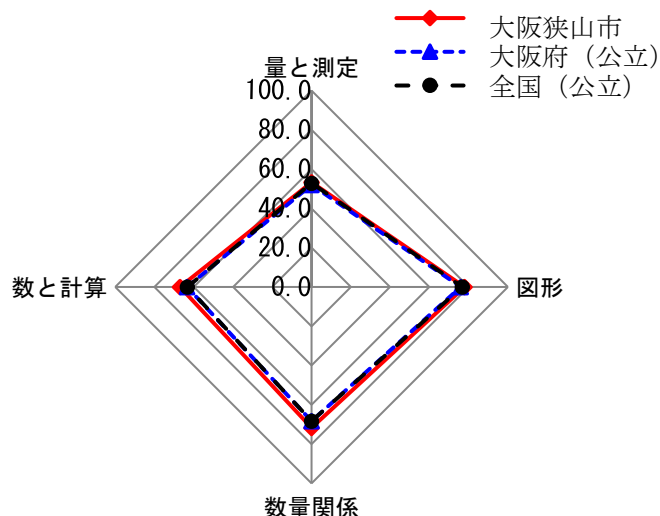
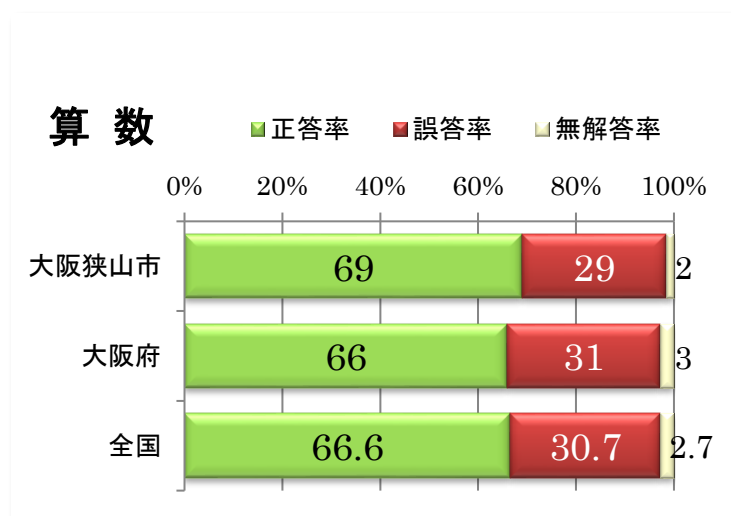
平均正答率は全国平均を下回っており、特に「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で課題が見られました。今後は、話し手の意図を適切に捉えたり、聞き手や読み手に伝わりやすい話し方や書き方について、相手を意識して工夫するよう指導していきます。「書くこと」「読むこと」の領域の平均正答率と無解答率の状況は全国平均値を上回っており、改善が見られました。

○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
書くこと（記述式） ○公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] に、「2 調査の内容と結果」の（１）と（２）で分かったことをまとめて書く。 1 三 (30.9% (28.8%)) 伝統的な言語文化（短答式） △公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] の１文を、接続語「そこで」を使って２文に分けて書き直す。 1 四 (2) (40.1% (47.8%)) 話すこと・聞くこと（記述式） △【インタビューの様子】の [イ] に、置職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く。 3 三 (64.2% (68.2%))	※目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかを問う設問であった。平均正答率で全国値を上回っていたが、今後も調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書く活動を授業の中で充実させていく必要がある。 ※読み手にわかりやすい文章を書くための手立てを具体的に指導する。例えば、児童が書いた文章を、文の長さという点に注目して読み返す学習が考えられる。一文の中で伝えようとしている内容が多く、長くて分かりにくい場合には、接続語を使って複数の文に分けて書くことの良さについて指導していく。 ※話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかを問う設問であった。実際の学習では、児童がインタビューに必然性を感じることができると話題の設定や、インタビューの前に自分の考えをもったり、自分が持っている情報と知りたい情報とを整理したりする活動を設定することが有効である。

2. 小学校算数



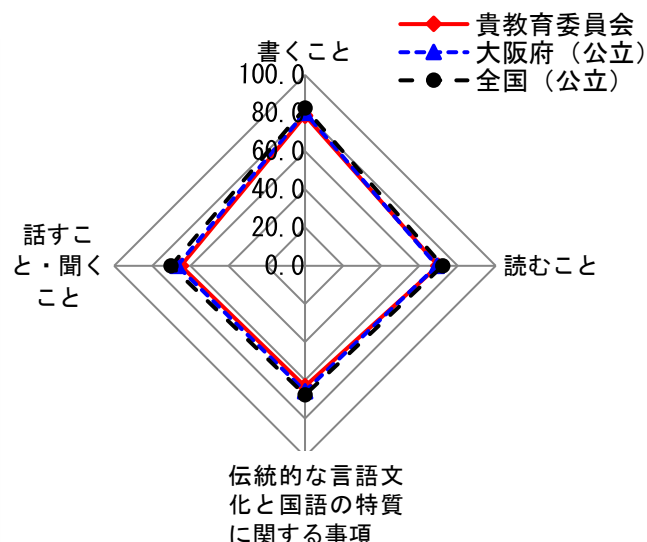
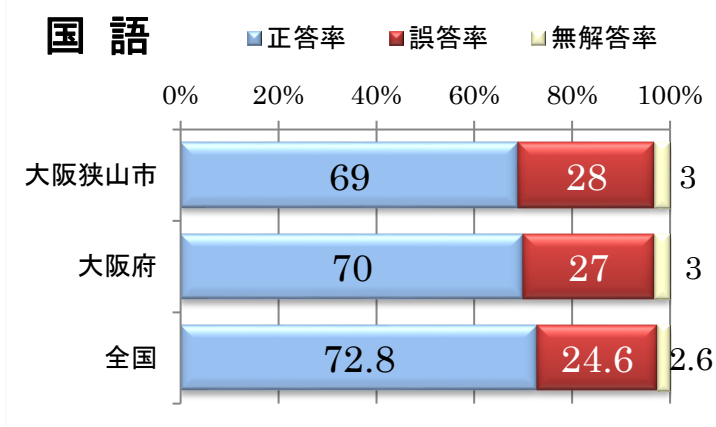
平均正答率は学習指導要領のすべての領域において、全国平均を上回る結果となりました。無解答率も全国平均より良好な結果でしたが、「量と測定」の領域や「記述式」の出題では課題も見られました。今後は、児童の理解をさらに深め、定着させるために、授業における言語活動の充実をさらに進めてまいります。

○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
数と計算（記述式） ○減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く。 3（2）（32.0%（31.1%））	※正答率は全国平均値を上回っていたが、被除数と除数や商について、適用する数の範囲を広げながら、見いだしたことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめる学習活動を今後も充実させていく。また、「どの数でも当てはまるようにまとめると、どのようになりますか。」などと問い返し、児童自らが見いだした数と計算の性質を、一般的に表現しようとする態度を育てることが大切である。
量と計測（記述式） ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できる。 1（3）（45.7%（43.9%））	※正答率は全国平均値を上回っていたが、今後も児童が言葉や数を用いて求め方を説明できるよう、授業を工夫改善していく必要がある。例えば本問において、面積の求め方を「 $5 \times 4 = 20$ 、 $4 \times 2 \div 2 = 4$ 、 $20 - 4 = 16$ だから 16 cm^2 です。」と説明する児童に対しては、「20 や 4 は何を表していますか。」「 $20 - 4$ の引くはどのようなことを表していますか。」と全体に問いかけ、数の意味や演算の意味を、図形と関連付けて説明することができるよう指導する。
数量関係（記述式） △示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することができる。 4（3）（61.4%（62.6%））	※日常生活において、場面の状況に応じて、物事を判断したり、解決過程や結果を振り返り、判断したことをより適したものに改善したりすることができるようにすることが重要である。その際、場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにすることが大切である。

3. 中学校国語



平均正答率は全国平均を下回りました。「読むこと」の領域では全国平均とほぼ同じですが、その他の領域では課題が見られました。今後、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上での必要な言語環境を整え、生徒の言語活動の充実を図ります。また学校図書館を計画的に利用し、意欲的な学習活動や読書活動を充実していきます。

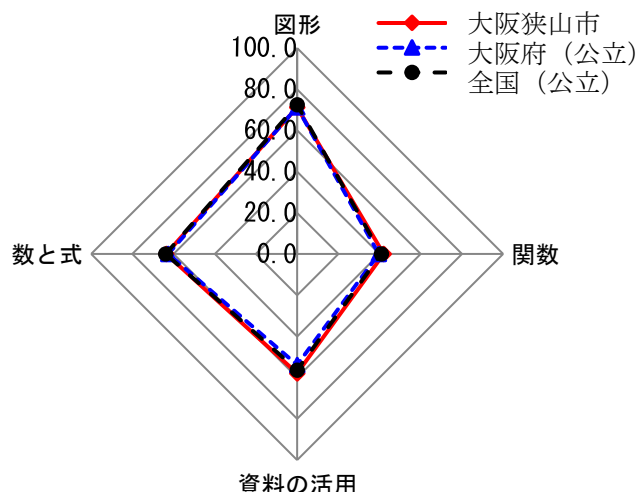
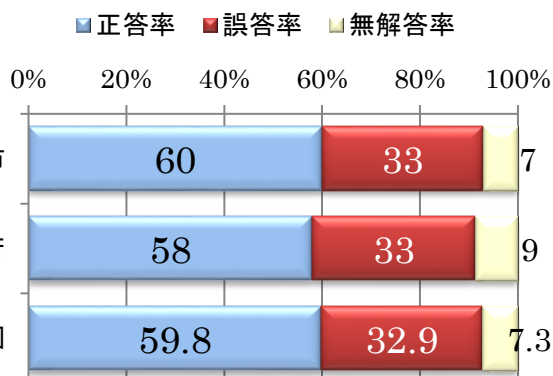
○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
話すこと・聞くこと（選択式） ○話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する。 2一 (78.2%(80.4%)) △話し合いで発言について説明したものとして適切なものを選択する。 2二 (62.0%(69.7%))	※話し合いをする際には、誰と何について、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているのかを捉え、それに応じて話すよう指導する。 ※自分の考えをわかりやすく相手に伝えるためには、話し合いの参加者の興味・関心、情報量などを考慮しながら相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結び付けて話したりするよう指導する。
書くこと（選択式） △意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。 3一 (82.8%(87.4%))	※読み手が分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くよう指導する。
読むこと（選択式・記述式） ○「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する。 1一 (62.2%(63.9%)) △「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一種を選び、感じたことや考えたことなどを書く。 1三 (88.2%(91.2%))	※説明、解説、論説など説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、書き手の目的や意図を考えながら、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する。 ※文学的な文章を読む際には、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導する。
伝統的な言語文化（短答式） △「声の広場」への投稿を封書で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。 1四 (50.4%(56.8%))	※手紙の形式に込められた相手への敬意について考えながら、手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして、丁寧に読みやすく書くよう指導する。

4. 中学校数学

数 学



平均正答率は全国平均とほぼ同じです。領域では「関数」と「資料の活用」、評価の観点では「数学的な技能」が全国平均を上回りました。数学的な資質・能力を育成するためには、数学的に問題発見・解決する過程が重要であることから、生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を重視した授業を行います。

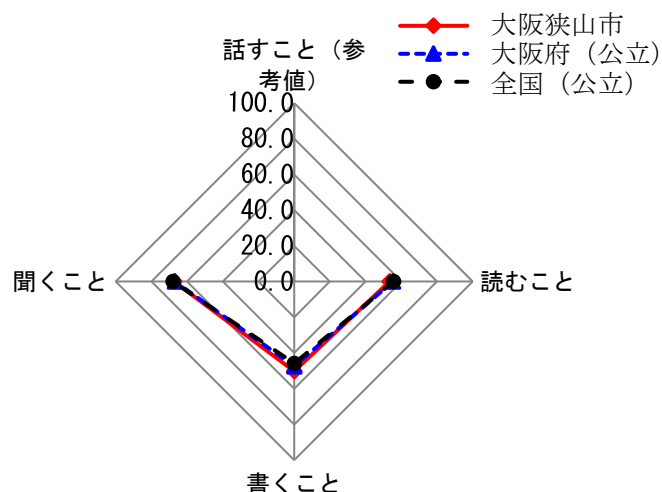
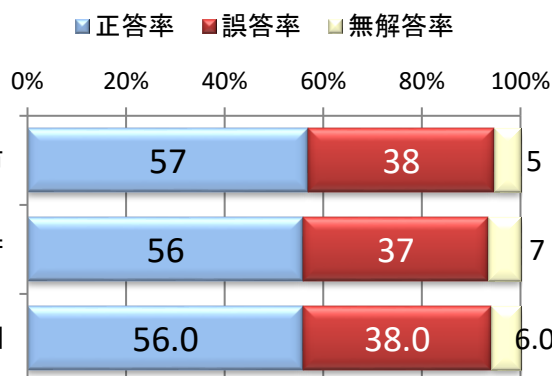
○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
数と式 (短答式) ○連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く。 2 (74.1% (70.1%)) △連続する4つの奇数の和が4(2n+4)で表されたとき、2n+4はどんな数であるかを選ぶ。 9 (3) (67.2% (69.6%))	※2つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に帰着させて解くという方針に基づいて、加減法や代入法を用いて解くことができるよう指導する。 ※数の性質を考察する場面において、文字を用いた式の意味を読み取り、事象に即して解釈することができるように指導する。
図形 (短答式・記述式) ○証明で用いられている三角形の合同条件を書く。 7 (1) (78.0% (75.8%)) △四角形ABCDがどのような四角形であればAF=GEになるかを証明する。 7 (3) (50.8% (53.3%))	※証明を読み、当てはまる三角形の合同条件を確認するとともに、その合同条件を成り立たせる辺や角の関係を図と対応させて捉える活動などを行う。 ※具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つかの前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導する。
関数 (記述式) ○冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。 6 (2) (36.3% (34.7%))	※日常生活における問題を、グラフや式を使って問題解決するためのそれぞれの方法の良さを実感できるように指導する。
資料の活用 (短答式) ○2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める。 5 (74.3% (72.8%)) ○読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める。 8 (1) (63.1% (57.9%))	※不確実な事象を捉え考察する際に、同様に確からしいことに着目し、起こり得る場合の数を基にして確率を求め、その確率を用いて説明できる事柄を明らかにするという活動を取り入れる。 ※目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、資料の代表値を求めることができるよう指導する。

5. 中学校英語

英語



平均正答率は全国平均を上回りました。領域では「読むこと」に関する問題は全国平均を下回りましたが、「書くこと」に関する問題では上回りました。今後、まとまりのある文章を読んで大切な部分を読み取る指導や自分の考えを示すことができるよう、主体的に内容を読み取る指導の充実を図るとともに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域がバランスよく習得できる授業を行なっていきます。

○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
聞くこと（選択式・記述式） △教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する。 1 (2) (81.7%(88.6%)) ○イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える。 2 (79.7%(71.8%)) △来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてアドバイスを書く。 4 (6.4%(7.6%))	※小学校から慣れ親しんできた教室英語を引き続き使用するとともに、中学校段階にふさわしい教室英語の表現の工夫を行なう。 ※話の概要を聞き取ることができるようにするために、場面設定を工夫しながら、聞き取りのためのポイントを示したり、ポイント自体を生徒自身が考えられるよう指導を行う。 ※日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、聞いて把握した内容に適切に応じる力を体験的に身に付けさせる。
読むこと（選択式） △ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 5 (2) (66.0%(74.4%)) ○発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する。 6 (61.8%(62.9%))	※日常的な話題について、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を適切にとらえたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、内容や、必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けられるよう指導する。 ※教科書や他の題材を数多く読み、読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても、推測して読み進めていくように指導する。
書くこと（短答式） ○与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。 9 (2) ① (77.6%(73.6%)) ○与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。 9 (3) ① (64.7%(53.5%))	※一文のみを示して空欄の動詞の形を変えるのではなく、対話や文章の流れからふさわしい形式や時制を考える活動などを行う。 ※特定の言語材料のみを用いて文を書くのではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用して文を書くことを授業の中に位置づける。

6. 生活・学習状況にかかる質問紙調査

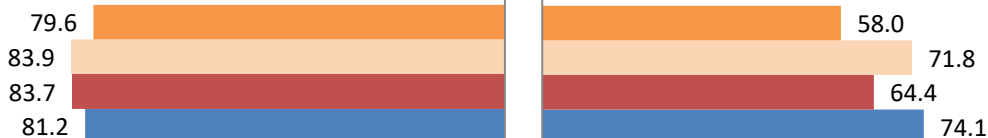
「おおさかさやま家庭教育への10の提言」に関係する項目について、本年度の本市の結果を、平成29・30年度の結果および本年度の全国結果と比較しました。数字は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」等、設問に対しての肯定的な回答の合計（%）を表しています。

小学校

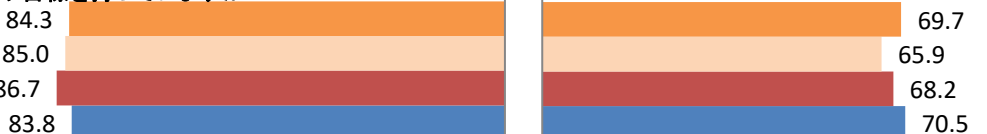
中学校

■ H29市 ■ H30市 ■ R1市 ■ R1全国

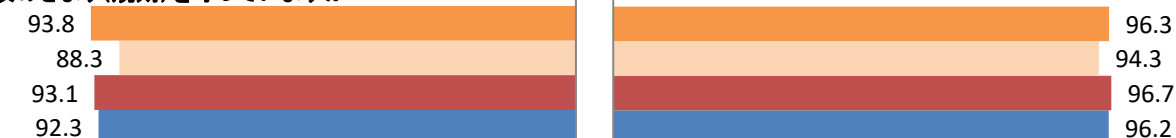
○自分には、よいところがあると思いますか



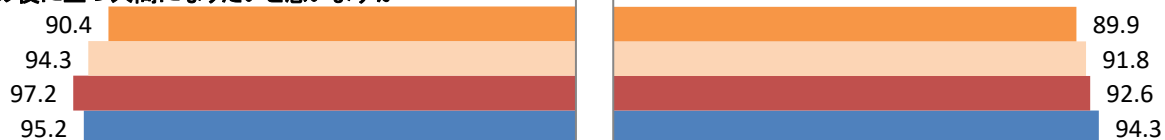
○将来の夢や目標を持っていますか



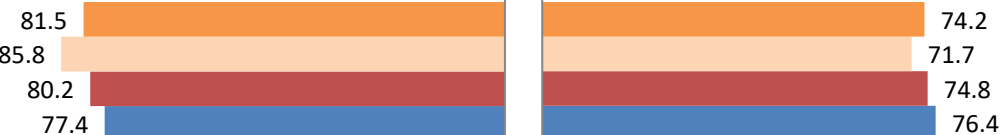
○学校のきまり(規則)を守っていますか



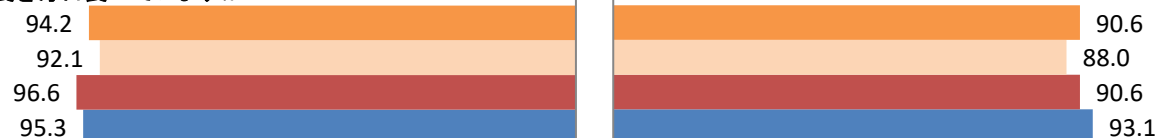
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか



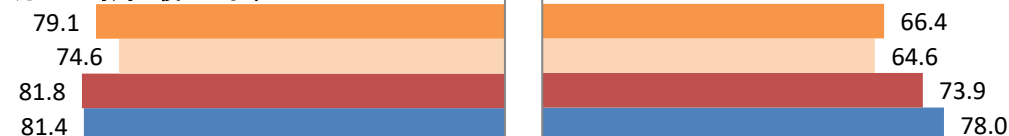
○家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか



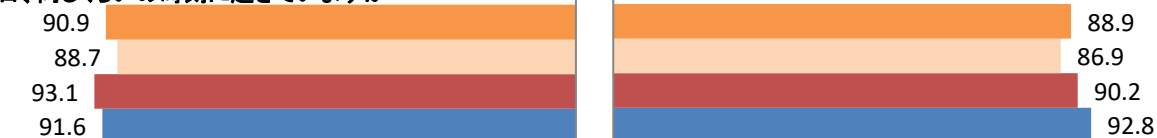
○朝食を毎日食べていますか



○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



○今住んでいる地域の行事に参加していますか



○学校の授業以外に、普段1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか(10分以上)



小・中学校で「学校のきまり（規則）を守っていますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が高い水準を維持しています。さらに、小・中学校で「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合が年々増加しています。各学校では班活動や係活動、委員会活動で一人ひとりが役割を担い、責任感を持って活動できるよう取組みを進めています。自分のためだけでなく、仲間のために行動することは、子どもたちの自己有用感を育む上でとても重要な経験です。そのために、今後も子どもたちのがんばりをていねいに評価し、しっかりと褒めて自信をつけられるよう努めてまいります。

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、ここ三年間で最も高くなっています。基本的な生活習慣を身に付けることは、児童生徒の自立を促し、自発的に学んでいく心を育む上でとても大切であり、よい傾向であると考えられています。一方で、「学校の授業以外に、普段1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか」という質問に対して、「10分以上」と回答した児童生徒の割合は全国平均値よりも低くなっています。読書に親しむことで、子どもたちは新たな知識と出会ったり、先人の生き方を学んだり、生きていく上で大切な情報を得ることができます。学校でも様々な機会で開催・指導してまいりますので、今後も引き続きご家庭のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



おおさかさやま

家庭教育への10の提言

1. 他の子と比べずに、認めて、褒めて、自信を
2. 「だめなことはだめ」一親としての躰と言動規範を
3. 「目を離さず、手を放す」の心構えを
4. 家庭において一人ひとりに役割分担を
5. コミュニケーションの取り合える時間の確保を
6. 明るい挨拶が交し合える家庭を
7. 十分な睡眠時間とバランスのとれた食生活を
8. 自然や人と触れ合える遊びや活動の場を
9. 伝えよう、先人の知的財産である本の面白さを
10. ご家庭ならではの約束事を

◇「家庭教育への10の提言」との関連項目以外で80%以上の児童生徒が肯定的な回答をした
主な項目 ※（ ）内は過年度の本市の結果

＜小学校＞

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・・・98.7%（H30：97.6%）
- 人が困っているときは、進んで助けている・・・91.6%（H30設問なし、H29：83.0%）
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある・・・97.4%（H30：設問なし、H29：95.4%）

＜中学校＞

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・・・94.6%（H30：92.6%）
- 人が困っているときは、進んで助けている・・・83.0%（H30設問なし、H29：77.4%）
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある・・・93.4%（H30設問なし、H29：95.7%）

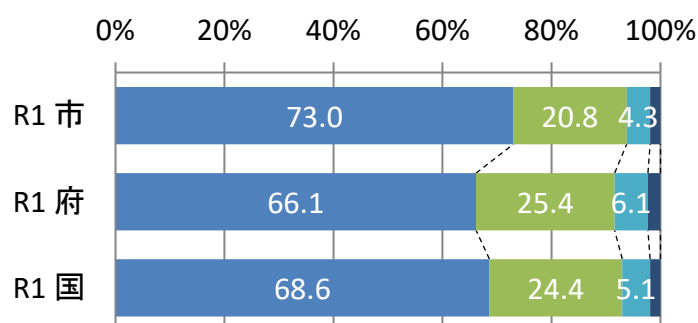
困難な事柄であっても、努力したり仲間と協力したりして成し遂げることで、人を大切にしようという気持ちが育まれます。また、「できた」という達成感を味わうことで、次の活動への意欲がわいてきます。子どもたちが意欲的に様々なことに挑戦する中で成長していけるように指導してまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

7. 子どもの学力を高めるために

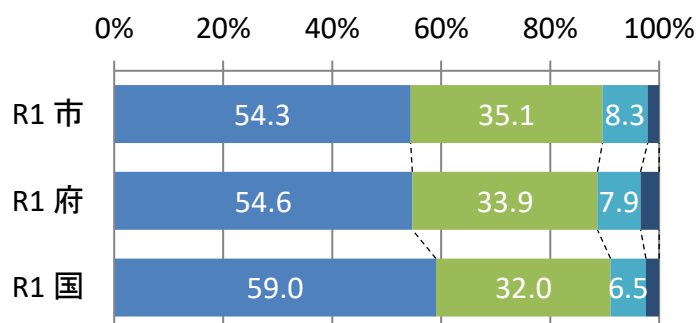
I－①. 質問紙調査「国語の授業で学習したことの活用」について

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

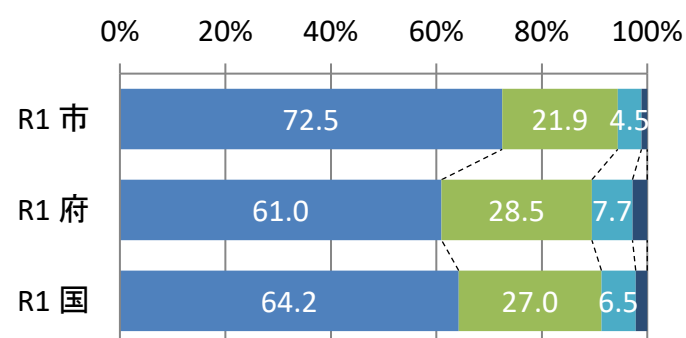
小学校【38】 国語の勉強は大切だと思いますか



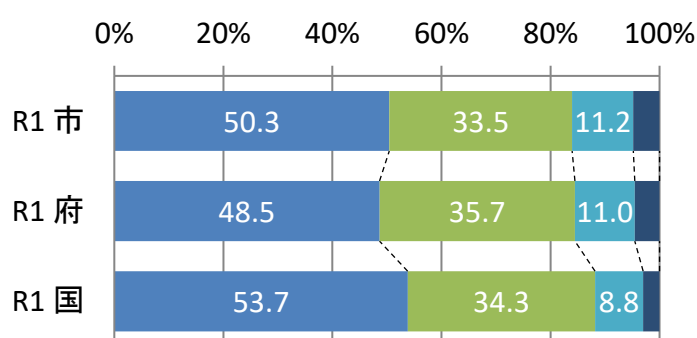
中学校【41】 国語の勉強は大切だと思いますか



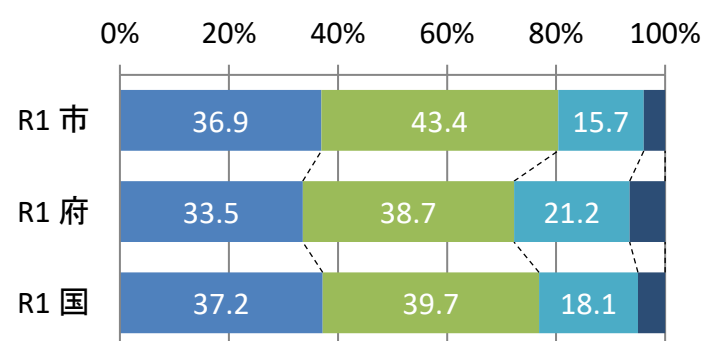
小学校【40】 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



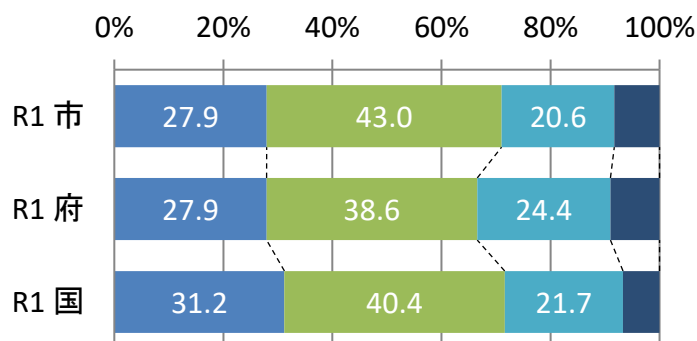
中学校【43】 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



小学校【41】 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか



中学校【44】 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか

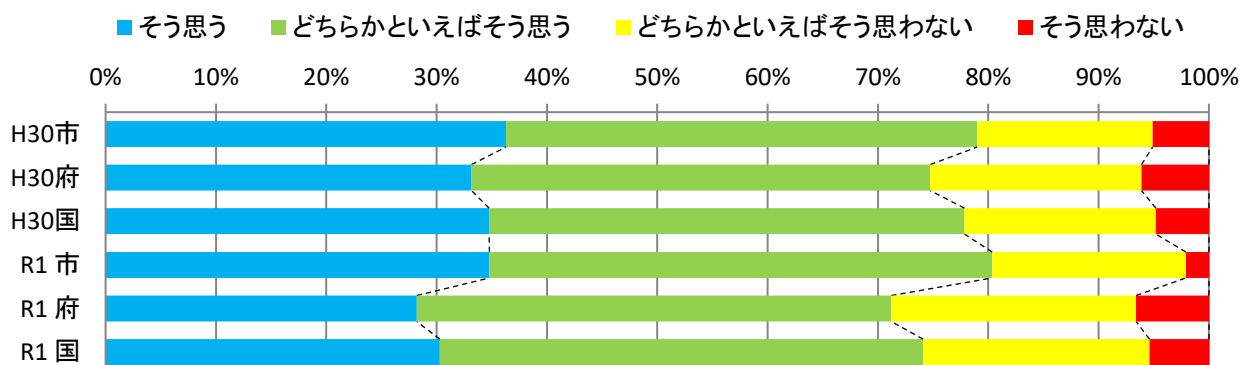


今回の質問紙調査では、国語に関して小・中共通の 9 項目の質問が取り扱われました。そのうち、小学校では 9 項目中全てにおいて、中学校では 9 項目中 6 項目において、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が全国平均値並みか、全国平均値を上回る良好な結果でした。

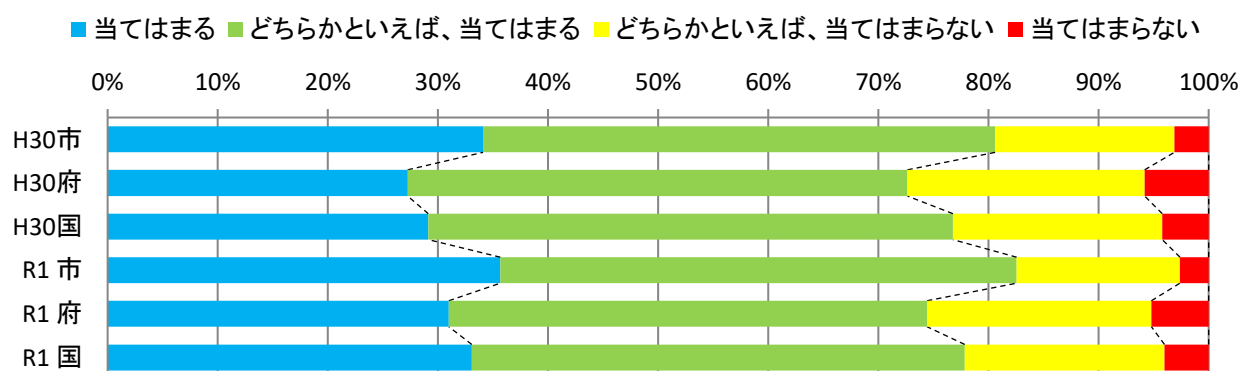
しかし、中学校では「封筒の書き方」や「わかりやすい表現で、話合いの話題や方向を参加者全員で共有する」といった、国語で学んだことを実生活で活用する出題で課題が見られました。上記の質問紙調査の結果もふまえて、中学校のみならず小学校段階から、国語で学んだことを実生活で生かすことの良さを実感できる授業づくりの工夫改善に取り組んでまいります。

I-②. 質問紙調査 「児童主体の授業」の実施状況について（小学校）

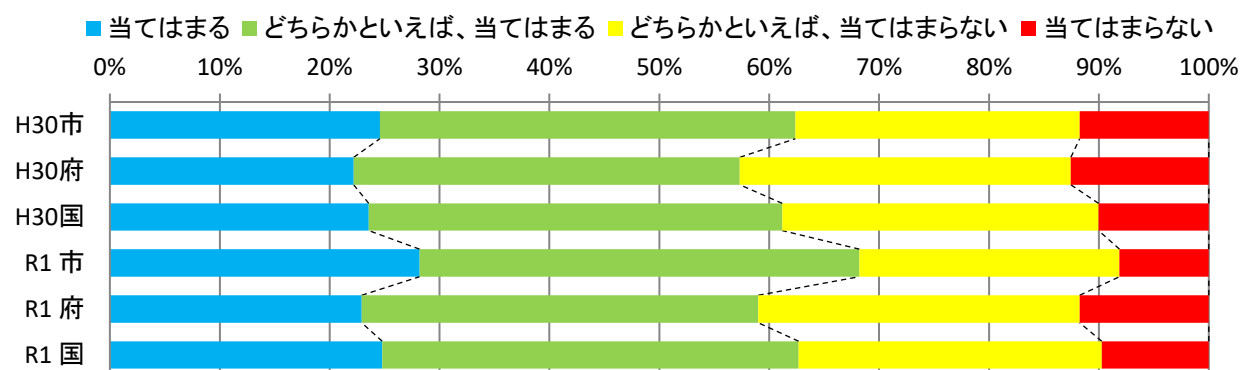
小学校【29】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



小学校【35】5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

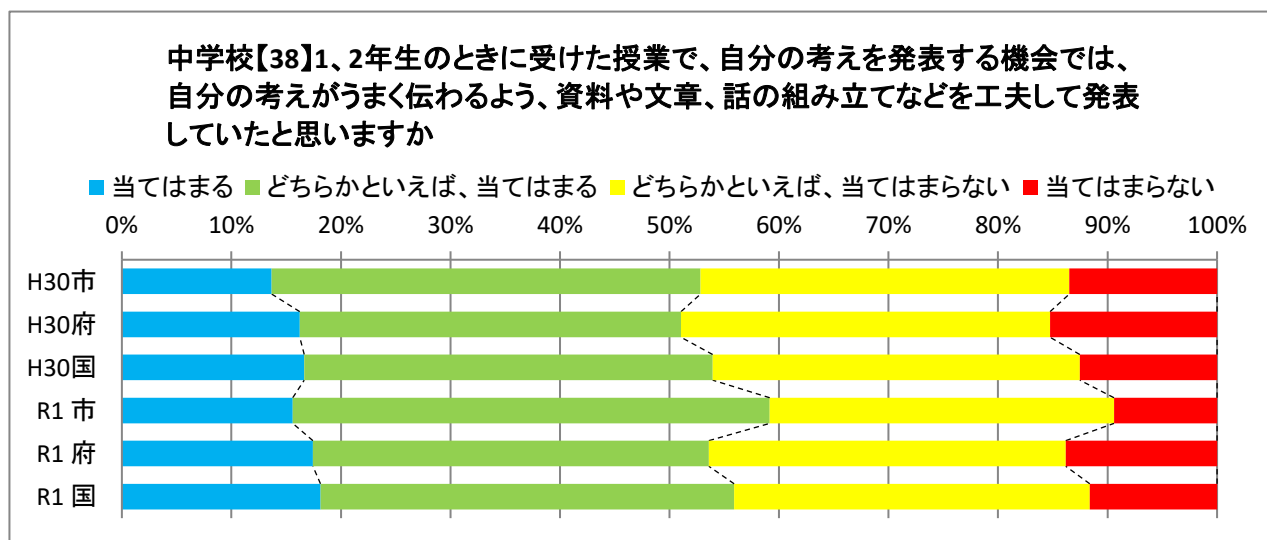
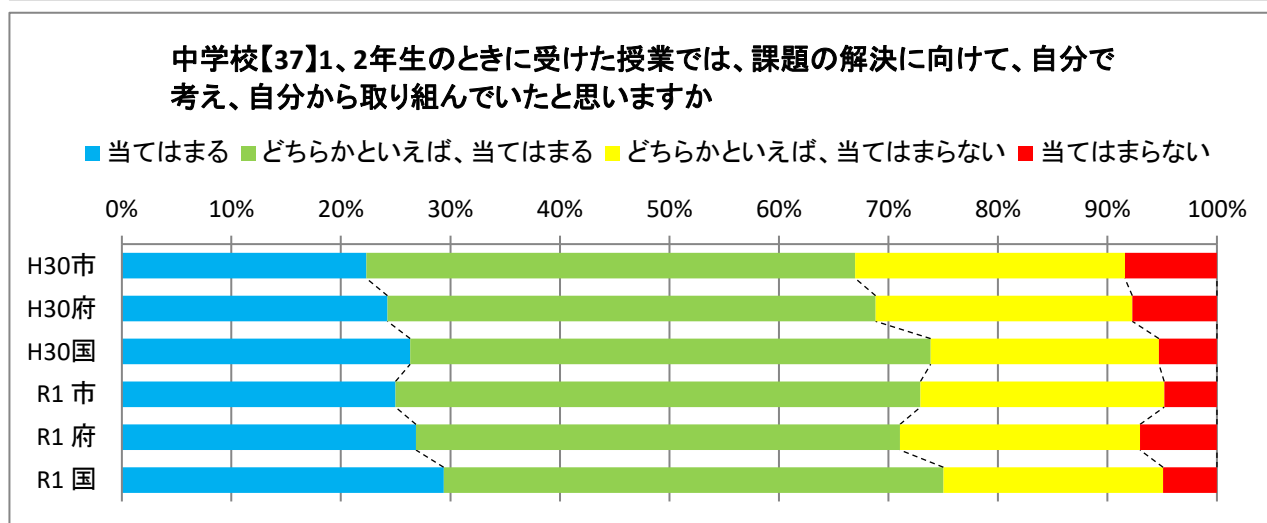
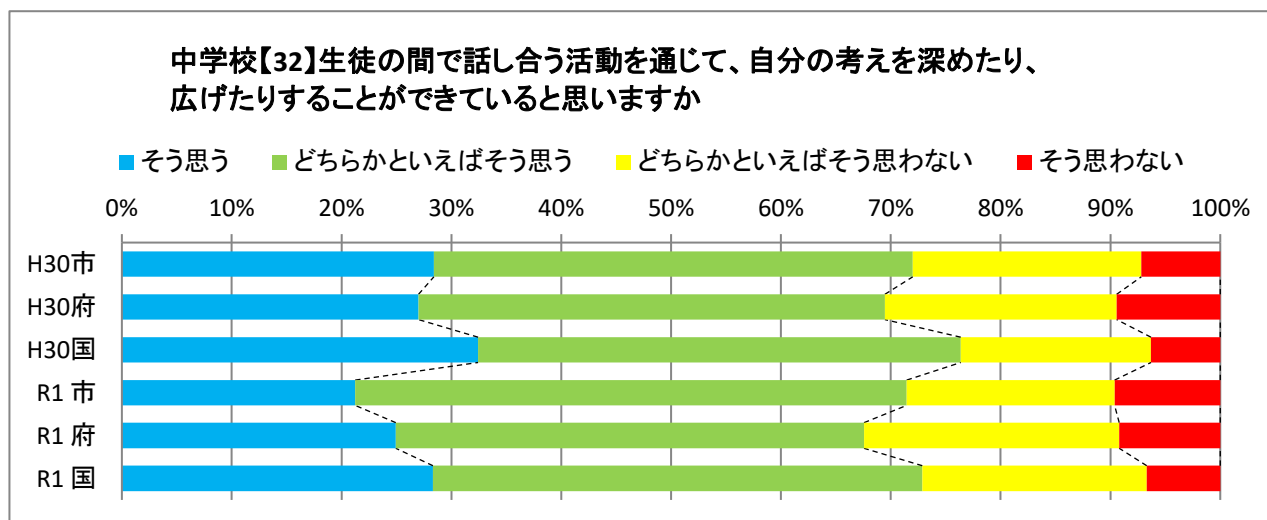


小学校【36】5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



上記3つの質問紙項目は、新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」と関連が深い内容です。本市では昨年度と同様に、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」）をした児童の割合が全国・府平均値を上回りました。各校で児童の実態に応じた授業づくりを工夫し、ペアやグループで考えを出し合い、全体で話し合っって考えを深めるといった学習活動を充実させてきた成果であると考えます。今後もさらに「相手にわかりやすく伝えるためには、どんな工夫をするといいだろう？」といった問いを投げかけるなど、子どもたちが主体的に考えられるような授業づくりを継続して進めてまいります。

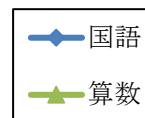
I－③. 質問紙調査「生徒主体の授業」の実施状況について（中学校）



「自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、工夫していたと思いますか」の項目では、本年度は肯定的な回答の割合が全国平均値を上回っていました。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の項目では、全国平均値を下回っていたものの、平成30年度調査時より改善傾向であり、各校の取組みが反映されてきていることがわかりました。今後も、生徒が課題に対して自分なりの見通しや意見を持った上で、友達との意見交換を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、さらなる授業改善に取り組んでまいります。

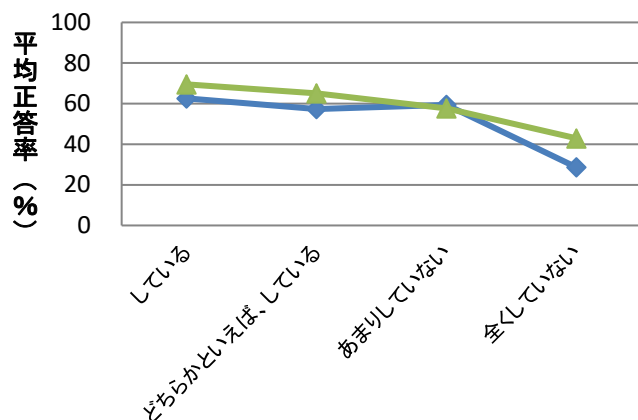
Ⅱ. 質問紙調査と学力調査との関係から

生活習慣や学習状況と、学力との関連が深かった項目を示しました。

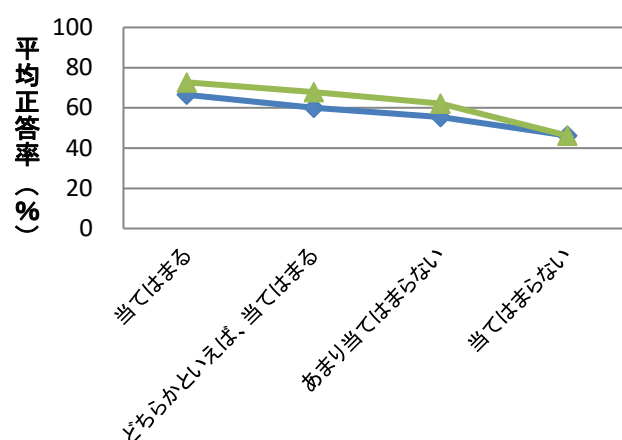


小学校

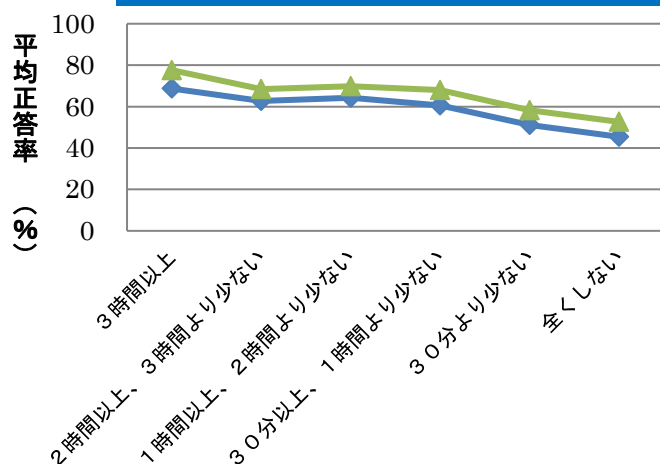
朝食を毎日食べていますか



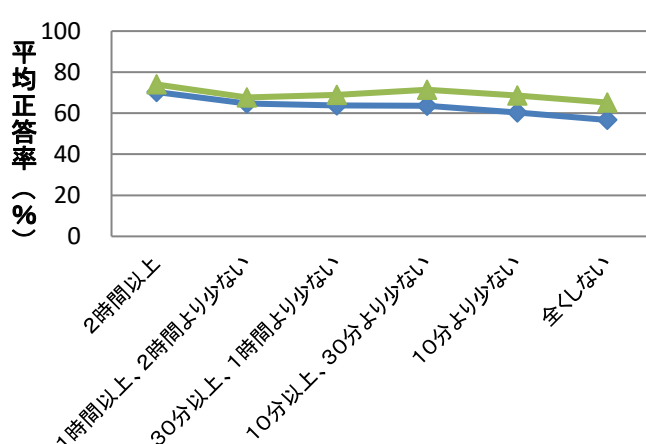
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか



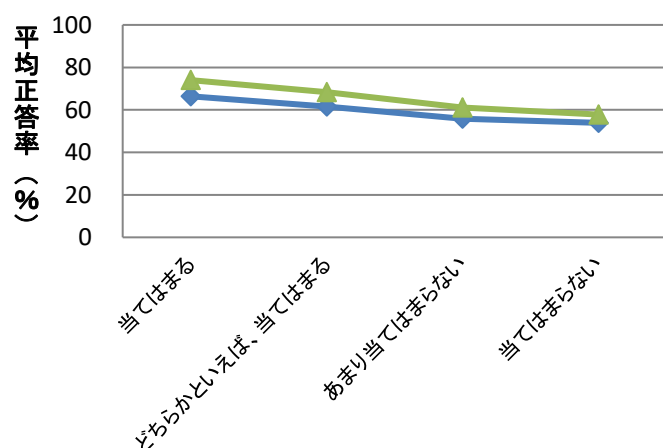
学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（※1）



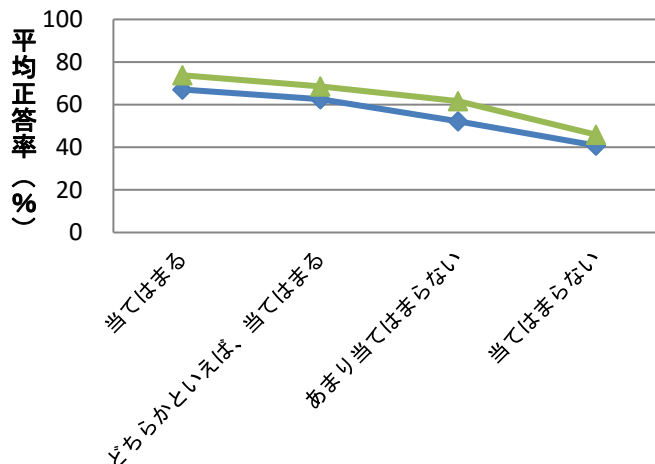
学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（※2）



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



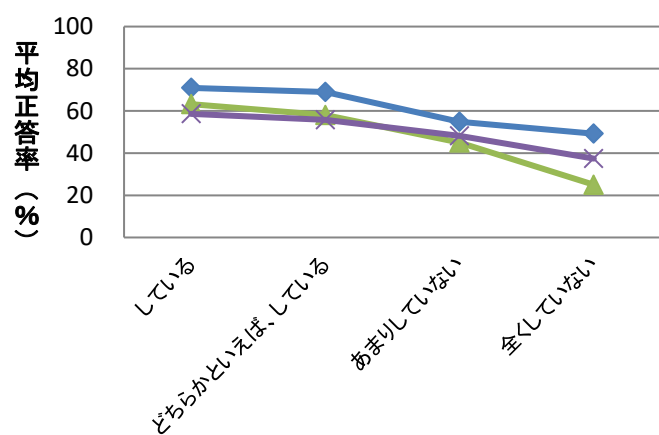
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



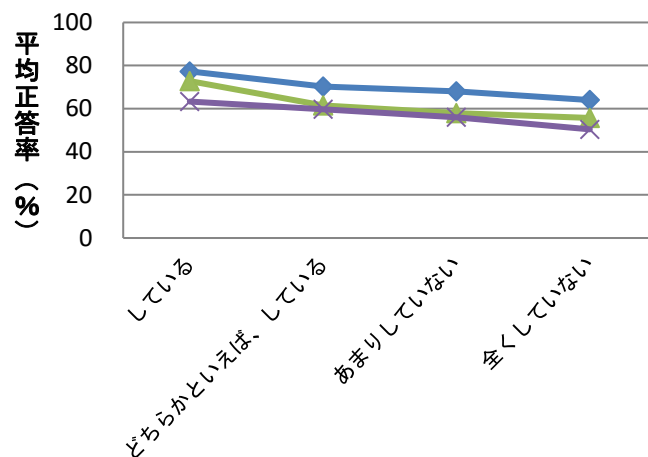
（※1）月曜日から金曜日まで 学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む
（※2）月曜日から金曜日まで 教科書や参考書、漫画や雑誌は除く

中学校

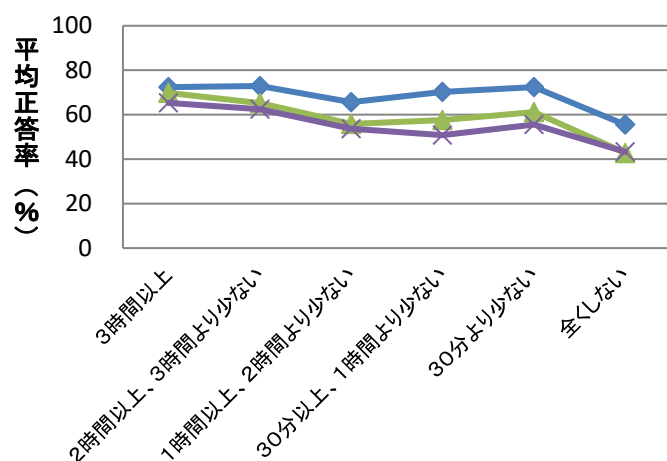
朝食を毎日食べていますか



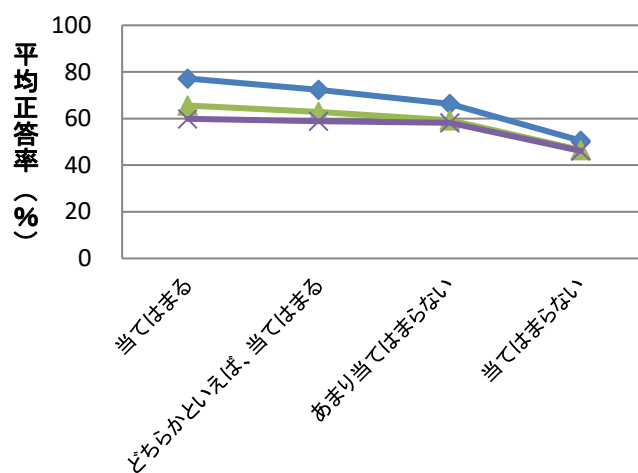
家で自分で計画を立てて勉強していますか



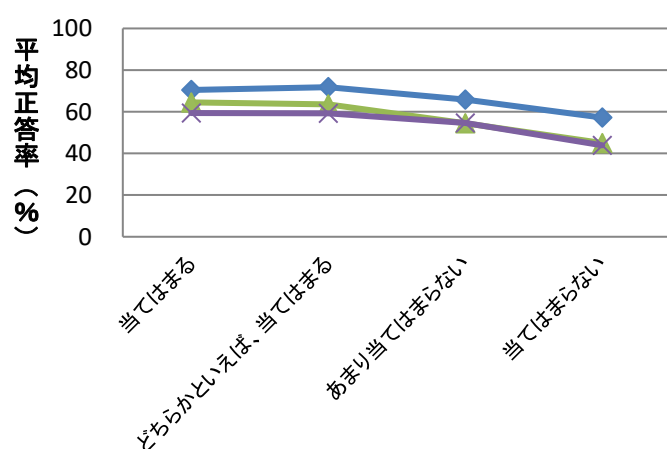
学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか (※1)



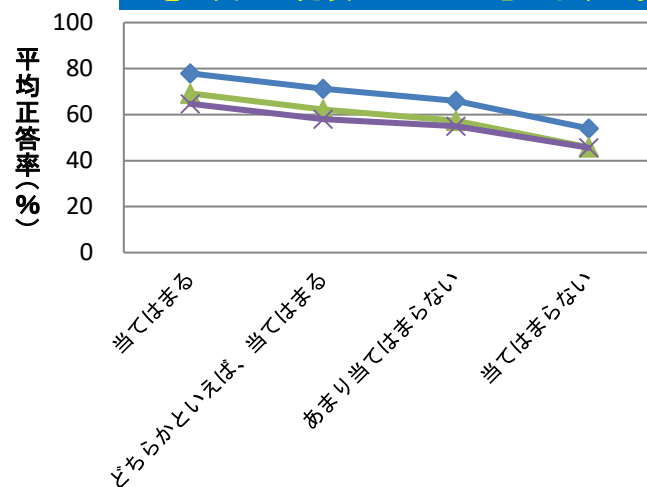
読書は好きですか



生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



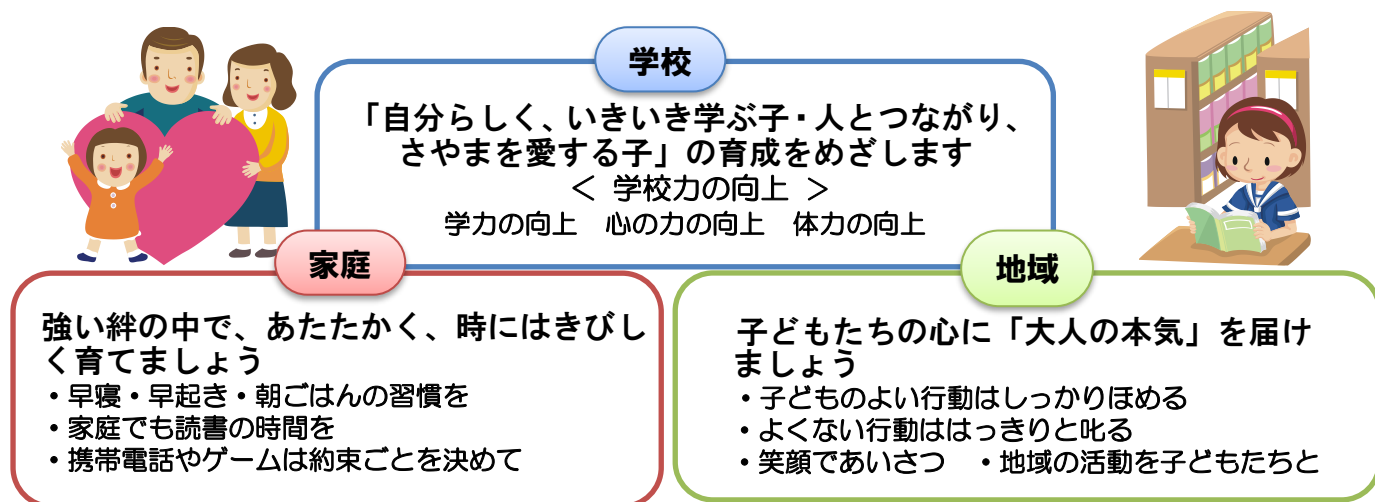
1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



小・中学校とも、「朝食を毎日食べていますか」「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がみられました。また、授業における話し合い活動や発表の機会に、自分で考えたり、工夫したりしている児童生徒ほど、平均正答率が良好であることがわかりました。

Ⅲ. 学校・家庭・地域、みんなで力を合わせる大切です。

一人ひとりの子どもたちに、確かな学力を育むための鍵は、学校・家庭・地域の「つながり」です。



おおさかさやま

学校園教職員の実践 10 か条

1. 子どもの小さな成長に気づき、褒めて、自信をつけます
2. 教師として、言動規範をしめします
3. 「口を出しすぎず、よく聴く」の心構えでのぞみます
4. どの子も活躍できる場をつくります
5. 子どもの気持ちを理解し、温かく寄りそいます
6. 笑顔で、元気よく挨拶を交わします
7. 教職員チームの一員として、気持ちをそろえて取り組みます
8. 自然や人と触れ合える体験活動の場をつくります
9. 本の面白さを伝えます
10. 本校ならではの取組みを開発します



新しい年度のスタートです

平成31年度が始まりました。小学校においては新しい学習指導要領の移行期の最終年度となり、中学校においては3年間の移行期の2年目となります。教育の分野においても、今年度は平成と新しい時代をつなぐ、大切な一年となります。

今回の学習指導要領の改訂では、これからを生きる子どもたちに必要な力が、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」そして「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱として整理されました。これらの力をバランスよく育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善と、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められています。

それとともに、学校における働き方改革についても、喫緊の課題として対応が求められています。本市の小・中学校では、今年度当初から電話の音声応答対応を開始し、8月13日～15日は学校閉庁日とします。1月25日に公表された中央教育審議会答申では、今回の

働き方改革の目的として、「教師のこれまでの働き方を見直し、教師が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになる」と示されています。各学校の教職員が、限られた時間の中で、教育効果の最大化を図ろうという意識を持ち、同じ目標に向かって取り組んでいくことが大切です。

平成31年度の保育教育指針には、昨年度に引き続き、教職員が一丸となって一層豊かであたたかい「学びの環境づくり」を進めていくことを掲げています。教育委員会では、今年度も学校とともに教育活動を積極的に推進してまいりますので、この1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



小学生が図鑑に読み聞かせ



保幼小中教職員の連携



プログラミングの授業

さやまチャレンジランキン

昨年度実施しておりました『さやまチャレンジランキン(大綱とび)』の最終結果をお知らせします。学年の部の1～3位、総合の部1～5位には表彰状が贈られました。今年度も体力向上と集団づくりを図るため、チャレンジランキンは実施されます。新しい学級でも気持ちを揃え、記録をめざして頑張ってくれることを期待しています。

小学校 8の字とび【学年の部】①～⑥は総合順位

1年	学級名	ポイント	2年	学級名	ポイント
①北小	1の1	135	①南一小	2の1	236
②北小	1の3	122	②南一小	2の2	113
③南二小	1の3	111	③第七小	2の1	82
④南一小	1の1	81	④南三小	2の1	71
⑤第七小	1の3	64	⑤南二小	2の2	51
3年	学級名	ポイント	4年	学級名	ポイント
①北小	3の3	223	①南一小	4の1	243
②南一小	3の1	217	②南一小	4の2	199
③南一小	3の2	188	③第七小	4の1	173
④第七小	3の3	137	④南二小	4の2	146
⑤北小	3の1	131	⑤南三小	4の2	141
5年	学級名	ポイント	6年	学級名	ポイント
①南二小	5の3	281 ①	①南三小	6の1	260 ③
②第七小	5の3	273 ②	②北小	6の3	250 ⑤
③南二小	5の2	251 ④	③南三小	6の2	245
④第七小	5の1	177	④南二小	6の2	205
⑤南二小	5の1	168	⑤南二小	6の1	198

小学校 全員とび【総合の部】

ランキン	小学校名	学年・学級名	ポイント
1位	南一小	6年2組	621
2位	南一小	6年1組	480

中学校 全員とび【学年の部】①～⑤は総合順位

学年	ランキン	学校・学級名	ポイント
1年の部	1位	南中 3組	1178 ④
	2位	南中 1組	741
	3位	第三中 C組	660
	4位	第三中 B組	558
	5位	狭山中 D組	544
2年の部	1位	狭山中 B組	1260 ③
	2位	狭山中 C組	1088
	3位	第三中 A組	1044
	4位	第三中 D組	992
	5位	第三中 E組	990
3年の部	1位	狭山中 B組	1406 ①
	2位	南中 2組	1386 ②
	3位	狭山中 D組	1147 ⑤
	4位	第三中 A組	1089
	5位	南中 4組	928

大阪狭山市授業力向上研修

昨年度の3学期には『大阪狭山市授業力向上研修』として4校で公開授業を行い、市内小中学校から多くの教職員が参加しました。

外国語の公開授業(第七小学校)

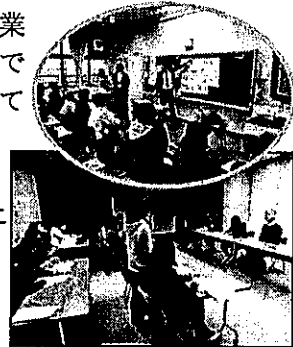
平成31年1月31日(木)

第七小学校は1月31日(木)に、授業力向上研修として5年外国語の公開授業を行いました。指導者は泉論志教諭とALTのNanaさんで、単元名は『Where is the treasure? ~位置と場所~』です。

本時の目標は、「相手にとって分かりやすい道案内を考えることができる」です。まずActivity(1)では相手にとって分かりやすい道案内の文章を個人で考えました。Activity(2)では、友だちとペアを作って道案内の仕方を練習して、分かりやすくなるようにアドバイスをしました。

授業後の討議会では、今日の授業の良かった点や課題・自分の授業でも取り入れられることなどについてグループ協議を行いました。

最後に関西大学の竹内理先生から①Robot Gameが工夫されていた②子どもがどれだけ英語を使えたがポイント③高学年では文字指導も毎時間行う方がよい④今日のめあてには「知識・技能」と「思考・判断・表現」両方の評価の観点が含まれていた、などの指導助言がありました。



英語の公開授業(第三中学校)

平成31年2月13日(水)

第三中学校は2月13日(水)に、授業力向上研修として3年英語科の公開授業を行いました。指導者は中里好江教諭とALTのミラさんで、単元名は『Project 3』です。この研修は「大阪狭山市小中学校外国語連絡会」も兼ねており、英語担当・ALT等多くの教職員が参加しました。

本時の目標は、「相手の意見をよく聞いて、同意するか否定するかの応答を返す会話をする」です。この授業では、「給食派?弁当派?」など3つのトピックを元に、一人の生徒が自分の意見を英語で伝え、それを聞いた生徒が賛同するかどうかの意思表示をしました。そして、グループで1つの意見にまとめて次時の発表原稿を考えました。



授業後の討議会では、「事前準備がしっかりされていた」「1つのテーマについて自分の考えを話す小学校からの積み重ねが大事」等の意見が出ていました。最後に英語授業改善推進リーダーの下村教諭・藤原教諭より、1年間の振り返りと次年度のビジョンについての発表がありました。

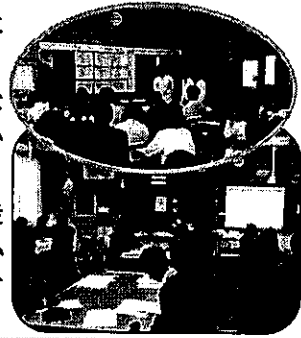
道徳の公開授業(狭山中学校)

平成31年2月18日(月)

2月18日(月)に狭山中学校は、授業力向上研修として2年道徳『樹齢七千年の杉』の公開授業を行い、小中学校から多くの教職員が参加しました。指導者は神宅則子教諭、主題名は「自然への畏怖」で、自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深めることが本時のねらいです。

授業では16.4mのひもで輪をつくって、縄文杉の胴回りがいかに大きいかを体験し、映像や年表で杉の「すごさ」をイメージできるように工夫されていました。そして、樹齢七千年の杉が人間の力を越えたどんな存在であるのか、まず個人で考え、それを班で活発に話し合いました。最後に、班ごとに話し合った内容を前に出て発表しました。

指導助言の大阪教育大学の藤永芳純先生からは「体験なくしてイメージなし、経験なくして言葉なし。今の生徒は自然体験が少ないので、それを補う手立てが必要」「資料を読み取ることで、生徒が道徳的価値の理解を自分とのかかわりで捉えることが重要」などのお話がありました。



英語の公開授業(南中学校)

平成31年2月18日(月)

2月18日(月)に南中学校は、授業力向上研修として1年英語科の公開授業を行いました。指導者は本山紗矢香教諭で、単元名は『Let's Read Alice and Humpty Dumpty』です。本時の目標は、「本文の内容を理解し、場面に応じた音読・表現ができる」です。

まずSpeaking Taskでは、ペアになって片方の生徒が物語のイラストを見て英語で伝え、もう一方の生徒が何の物語かを当てる活動をしました。Reading Taskでは、学習班で登場人物のセリフの確認や、読み方の工夫等について話し合い、よりよい音読の仕方を考え練習をしました。

授業後の討議会では、今日の授業や中学校英語の授業改善の課題・疑問について、グループ協議を行いました。最後に関西大学の竹内理先生から、①前半の歌や活動が、後半の音読につながるように計算された授業 ②英語は学習者としてではなく、使用者として学ぶもの ③単語で話すのではなく、語順を意識するようになどの指導助言がありました。



今年度も『呟呟』で、さやまの学校園の取組みを発信してまいります。よろしくお願いします。



啐啄 そったく

145号

令和元年6月10日発行

<http://www.city.osakasayama.osaka.jp>

gakkou@city.osakasayama.osaka.jp

大阪狭山市教育委員会学校教育グループ



平成31年度全国学力・学習状況調査

4月18日(木)、「平成31年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。本調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育指導の充実や、学習状況の改善等に役立てることをねらいとして、平成19年度より実施されています。



今回の調査実施から、A問題・B問題の区分がなくなり、知識・活用を一体的に問う調査問題となりました。また、中学校調査では、初めて英語の調査が実施されました。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加えて、「話すこと」に関する調査も実施され、各中学校のパソコンルームで、ヘッドセットを着用しパソコンから出題される調査問題に取り組みました。

今年度は、多くの学校で自校採点に取り組み、早速各校の課題を分析して、授業改善につなげています。

「平成31年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」

<https://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

学校図書館を充実・活用するためのモデル小学校

今年度、第七小学校では大阪府の指定を受け、「学校図書館を充実・活用するためのモデル小学校」事業に取り組んでいます。この事業は、本に親しむ活動や学校図書館を活用した授業等を行うことを通して言語能力を育成し、子どもたちの学力を向上させることを目的に実施しています。5月15日(水)には、市内10校の担当者及び図書館司書が参加し、「大阪狭山市学校図書館の充実・活用担当者連絡会」を実施しました。

連絡会の始めに、尾島課長より昨年度の全国学力学習状況調査の結果をもとに、大阪狭山市の子どもたちの課題を克服するためには「読む力」を充



実させる必要があることなどが示されました。続いて、市立図書館との連携とその方法について木村館長からお話いただきました。

また、指導主事からは、全国学力・学習状況調査の問題を分析し、「子どもに付けなければならない力とはどんな力なのか」、また、「その力をつけるためには、どんな授業を行う必要があるのか」を、グループ討議を交えながら説明しました。

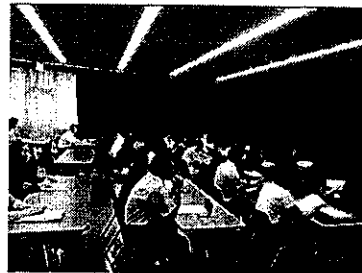
参加者からは、「連続型テキストと非連続型テキストとを関連付けて読むためには、普段の授業から取り組まなければならない。」「子どもたちにより多くの読む活動を取り入れることができるように、教室前の廊下に可動式の本棚を設置し、授業に関連する本を置いています。」など、活発な交流が実施されました。



大阪狭山市小・中学校外国語教育連絡会

5月24日(金)に、令和元年度 第1回大阪狭山市小・中学校外国語教育連絡会を実施しました。本年度は、中学校英語コーディネーターの本山先生(南中学校)、小中連携教科指導担当の上谷先生(第三中学校)、小学校専科指導充実担当の吉廻先生(南第三小学校)の3人を中心に、研修内容の普及や実践報告を行いながら、大阪狭山市の英語教育の充実を図ります。

また、この日は昨年度実施したGTEC(スコア型英語4技能検定)の結果概要の報告をベネッセコーポレーションの山本さんから受けました。



4技能とも概ね全国平均を上回る結果となり、特に「書くこと」「話すこと」については、無解答率が低く、「よく書けている」「よく話せている」という評価でした。さらに、アンケートの結果で「外国の人にもっと接してみたい」「友達と話し合ったり、協力し合ったりしながら英語の授業に取り込みたい」と感じている生徒が多いことが分かりました。今後は、この結果を参考に子どもたちが英語を臆することなく使えるようにするための授業づくりを進めていきたいと思ひます。



啐啄 そったく 146号

令和元年9月9日発行

<http://www.city.osakasayama.osaka.jp>

gakkou@city.osakasayama.osaka.jp

大阪狭山市教育委員会学校教育グループ

9月1日



防災の日

令和元年度夏季教職員研修

本年度も教育に関する様々なテーマについて、多彩な講師を招いて夏季教職員研修を実施しました。今回の啐啄では、その中からいくつかの研修を取り上げて紹介します。

大阪狭山市タイムリー研修 7/31

「一人ひとりの子どもを大切に育むために」

7月31日(水)にSAYAKAホールで、市内すべての学校園の教職員を対象にしたタイムリー研修が行われ、午前・午後を併せてのべ約500名が参加しました。

午前の第一部では、第三中学校区のキャリア教育の取組み「保幼小中の連携を通して」の実践報告がありました。

第三中学校区では、保幼小中という長期の視点で子どもを育てるため、毎年合同研修会を実施し、活発な話し合いが行われています。

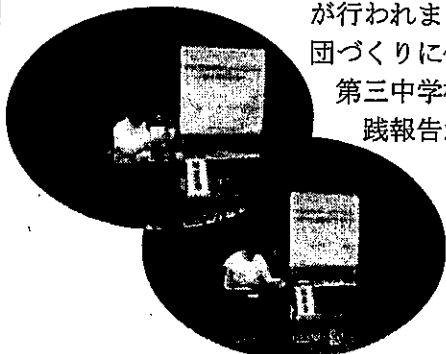
各学校園が、学びの連続性を意識しながら、①横のつながり ②縦のつながり ③親子のつながり ④子どもとSNS ⑤地域のつながりの5つの部会を立ち上げ、取り組んできたことを部会ごとに詳しく報告されました。

続いて、第二部は、和歌山大学の米澤好史さんに『愛着障害・愛着の問題を抱えるこどもの理解と支援』というテーマで講演していただきました。米澤さんは、「愛着障がいと発達障がいを混同される場合がよくあるが、特性を理解して障害に応じたアプローチを行うことが重要である」とし、愛着に課題のある子どもに対しての正しい関わり方や、正しいアセスメントの在り方等をわかりやすくお話しされました。



午後からは、大阪狭山市人権教育研究協議会主催で研修が行われました。第一部では、集団づくりに係る取組みについて、第三中学校と、東小学校から実践報告が行われました。

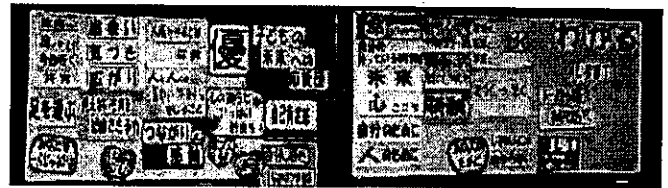
学級のすべての子どもたちが安心して過ごすことのできる学級を作っていくために、



子ども同士をつなげる取組みや家庭とつながるための取組み、そして先生たちがつながって集団づくりを進めていくという、つながりを大切にしたい素晴らしい実践報告でした。



第二部では、若手教員応援セミナー「元気塾PLUS」代表の仲島正教さんによる講演が行われました。「あ〜よかったな あなたがいて 〜つながりと感動を合言葉に〜」という演題で、ご自身の教職員時代の経験をもとに人権教育で大切にすべきキーワードをたくさん教えていただきました。また、新学期から使えるような集団づくりの「ワザ」も教えてくださいました。



その他の大阪狭山市夏季教職員研修



園工(共同制作)の指導 8/6

大阪教育大学 福岡知子さん



腰痛予防講座 8/2

運動器ケアしまだ病院のみなさん



普通救命講習 7/30

大阪狭山市消防局のみなさん



マナー研修 8/7

接遇インストラクター伊達美果さん



ふるさと さやま 発見 8/9

市文化協会舞踊部の皆さん他



安心安全なネットの利用 8/2

LINE株式会社 荒川 倫子さん



中学校 体育大会

令和元年9月27日(金)

各中学校が縦割りカラーに分かれて3年生を中心とし、自分たちの力で体育大会をつくりあげてきました。当日の運動場には歓声と拍手が響きわたり、真剣な表情で全力を注いでいる生徒たちの姿は輝いていました。会場全体が一体となり大きな感動に包まれました。

狭山中学校



令和最初にときはなて
燃き狭山中魂

スローガン

選手宣誓

開会式

南中学校



開会式

南中アスレチック

応援合戦

第三中学校



カラーパフォーマンス

綱引き

園児交遊玉入れ

小学校 運動会

令和元年10月20日(日)

当日は10月と思えないほどの暖かい日差しの下、市内各小学校の運動会が行われました。一人ひとりが力を出し切った個人競技、みんなで力を合わせ頑張った団体競技、団体演技、保護者や地域の皆さんの大きな歓声や拍手が運動場に響いていました。どの小学校も、全力を出し切った子どもたちの満足そうな笑顔が印象的でした。

東小



Let's サイロン (3年)



東人エター～風の結人～ (4年)

西小

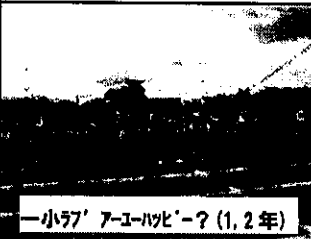


ハッパトハーン (5年)



騎馬戦 (6年)

南一小



一小57' アーエールビーズ (1,2年)

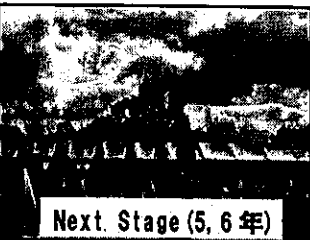


一小エター みんなの宝物 (3,4年)

南二小

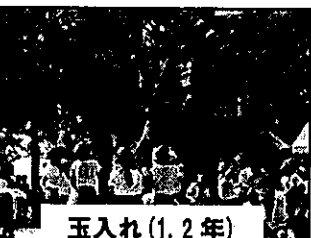


琉球の風 (3,4年)

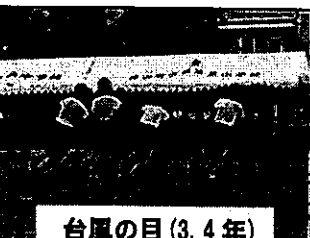


Next Stage (5,6年)

南三小



玉入れ (1,2年)



台風の日 (3,4年)

北小

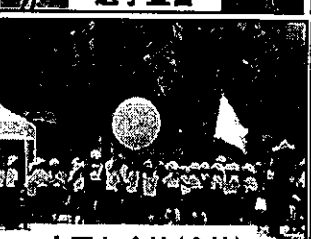


選手宣誓



架け橋 (5,6年)

第七小



大玉おくり (全校)



令和元年七小ソーラン (3,4年)



授業力向上研修

算数の公開授業(南第一小学校)

令和元年11月5日(火)

大阪府の「確かな学びを育む学校づくり推進事業(TM事業)」の学校公開を兼ねて実施しました。TM担当の藤井先生だけでなく、学校全体が同じ方向を向いて、取り組んでいる様子を分かりやすく公開していただきました。具体的な取り組みとしては、①一小スタンダードの定着と話の聞き方と聞く姿勢を身につけさせる②めあての提示と振り返りを確実に行う③自分の考えやその理由、根拠を書く時間を取り入れた授業づくりを行う④スピーチタイムの充実と、授業の中で対話の時間を必ず10分以上取り入れる以上の4点を全教職員で取り組んでいくために、研究部通信で実践例の紹介を行ったり、授業改善のポイントを示したりしているとのことでした。他校から参加した先生方も自分の学校に取り入れられる取り組みはないかという視点で熱心に報告を聞いていました。



国語の公開授業(第七小学校)

令和元年11月8日(木)

第七小学校は、本年度、大阪府の「学校図書館を充実・活用するモデル小学校事業(GTM事業)」を受け、学校図書館を活用した授業づくりの研究・実践を進めています。この日の授業は、小学校3年生の国語「はたらく犬について調べよう もうどう犬の訓練」という単元で、はたらく犬について調べ、その犬を紹介する文章を分かりやすく要約することがこの日の目標でした。この日までに市内の小学校や市立図書館から集められた働く犬についての本(約100冊)から、自分の調べたい犬について述べられているページを探し出して、授業に臨んでいました。授業では、①大切な言葉や文章、キーワードを入れる②言葉をけずったり、合体させたりして、文を1つか2つにする③言葉を言い換えたり、書き換えたりして分かりやすくしている④例をあげたり、繰り返したりしないなど、要約の仕方を参考に自力解決の場面とグループワークの場面を効果的に使い分けて、主体的・対話的で深い学びが実現されていました。研究協議の中で、「同じ犬についても複数の資料があり、どれが一番自分の紹介したい文章なのか比較しながら、読むことができてるととてもいい実践ではないか」という意見が出されました。



まるごとパック公開事業

大阪狭山市第三中学校

令和元年11月5日(火)

『学校まるごとパック事業』は、めざす生徒像の実現に向けて一丸となって取り組む教職員の姿と、学ぶ子どもたちの姿を、市内教職員や地域の方々に「まるごと」公開するものです。第三中学校のめざすこども像は、
 ○自ら学び、自ら課題を解決しようとする生徒
 ○規範意識を持ち、心と体の健康を大切にする生徒
 ○お互いの良さを認め合い、仲間と共に向上する生徒
 ○自分の思いや考えを表現できる生徒
 です。1年生は、5時間目が学活、6時間目が体育館で合唱コンクールの中間発表、2年生は5・6時間目を使って職業体験の報告会、3年生は5・6時間目ともに教科の授業を行いました。どの授業や取り組みにも第三中学校のめざす生徒像を意識した工夫が見られました。

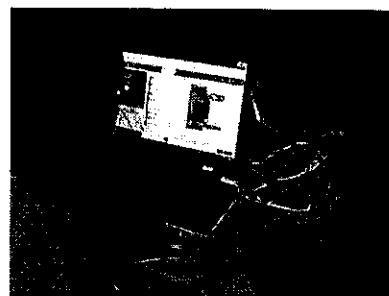


学校づくり応援事業

プログラミング教育(南第二小学校)

令和元年11月21日(木)

今年度、南第二小学校では学校づくり応援事業として、大阪大学の西森年寿先生に指導を受け『ICTを活用した学校づくり』の研究を進めています。11月21日には4年の理科の授業(指導者:家根内教諭)で、micro:bitを使って「おぼけライトをつくろう」という授業実践が行われました。明るさセンサーを使って、暗くなるとおぼけが光り、明るくなると消えるというプログラムを子どもたちが自ら作成しました。プログラミング教育の目的は、プログラミング言語を覚えることではなく、プログラミング的思考を育むことです。この日の授業でも、子ども同士で対話をしながら、試行錯誤し、意図した動きになるプログラムを考えていました。授業の最後に、教室の電気を消したときに、一斉におぼけライトが光ると、子どもたちの中から「おーっ!」「やったー!」など喜びの声がたくさん聞こえました。



学校給食における食物アレルギー対応について

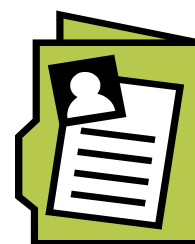
【基本的な考え方】

- ・学校給食は、学校教育の一環として実施されているため、本市では食物アレルギーをもつ児童生徒に対して可能な範囲で対応します。
- ・対象を副食とし、調理段階での食材料の除去を原則とします。

【具体的な対応について】

◎ 対応基準

- ・医師により食物アレルギーと診断されていること。
- ・アレルゲン（原因食品）が特定されており、医師から指示され食事療法を行っていること



◎ 食物アレルギー対応除去食

- ・除去できるもの《5種類9品目》

- ① 卵
- ② 乳製品（牛乳、チーズ、ヨーグルト、バター、脱脂粉乳）
- ③ いか
- ④ えび
- ⑤ かに

◎ デザートについて

卵や乳製品を含むデザート（プリン、ヨーグルトなど）で、アレルギーをおこす児童生徒には、代替としてゼリーを提供します。

◎ 成分表の配布

- ・調味料、パンの材料・配合割合、ふりかけなどの成分表…年間1回配布（4月末）
- ・加工食品、デザート類など…毎月入札後配布

※ 成分表は、学校を通じて配布します。

◎ 申請方法および実施までの流れ

- ・除去食希望者に対する食物アレルギー調査票に記入・提出 ⇒ 保護者・学校管理職・養護教諭・給食センター所長・栄養教諭で面談 ⇒ アレルギー対応食依頼書・学校生活管理指導表を提出 ⇒ アレルギー対応食決定通知書送付 ⇒ アレルギー除去食実施

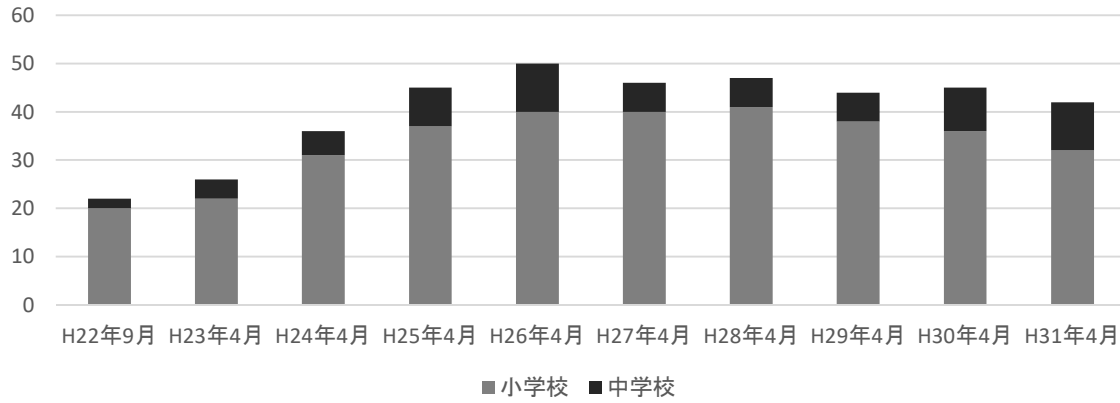
◎ その他（食物アレルギー対応除去食以外）

- ・牛乳・パン・おにぎりのふりかけ停止

それぞれの停止依頼書の提出によって実施（診断書の提出は不要）

食物アレルギー除去食提供者数

【単位:人】



【平成31年4月現在 単位:人】

学校名	学年	除去食〔5種類9品目〕					デザート代替 ゼリー	
		①卵	②乳製品(牛乳・チーズ・ヨーグルト・バター・脱脂粉乳)	③いか	④えび	⑤かに	ヨーグルト〔乳製品〕	ケーキ〔乳製品〕・〔卵〕
東 小	低学年	4	3	1	2	1	3	5
	中学年	2			1	1		2
	高学年	1	1	1	1	1	1	1
計	12	7	4	2	4	3	4	8
西 小	低学年							
	中学年	1	1		1	1	1	1
	高学年							
計	1	1	1		1	1	1	1
南第一小	低学年							
	中学年							
	高学年							
計	0							
南第二小	低学年	1	1				1	2
	中学年			1	1	1		
	高学年	3	1	1	2	2	1	3
計	7	4	2	2	3	3	2	5
南第三小	低学年							
	中学年							
	高学年							
計	0							
北 小	低学年	1	1				1	1
	中学年	2						2
	高学年	3	4	1	2	2	4	5
計	10	6	5	1	2	2	5	8
第七小	低学年	1	1				1	1
	中学年	1						1
	高学年							
計	2	2	1				1	2
狭山中		1	1	1	1	1	1	2
計	3							
南 中		1	2		3		2	2
計	4							
第三中			1	1	2	2	1	1
計	3							
小学校計	32	20	13	5	10	9	13	24
		一種類	16	複数	15	全て	1	
中学校計	10	2	4	2	6	3	4	5
		一種類	5	複数	5	全て		
合 計	42	22	17	7	16	12	17	29
		一種類	21	複数	20	全て	1	

令和元年度夏休み れき し じゅく こども歴史塾



さやりん

れきし 歴史にくわしい学芸員さんが、
れきし 歴史のおもしろさを教えてくれるよ！
おし
みんなあつまれー！
もう 申し込み方法はチラシのウラを見てね

- ◆日 時 令和元年8月21日(水)～8月23日(金)
- ◆時 間 いずれも午後1時30分～午後4時
- ◆場 所 大阪府立狭山池博物館 ホール
- ◆対 象 小学4～6年生
- ◆定 員 30名 応募者多数の場合は抽選
- ◆参 加 費 無料
- ◆申込期日 令和元年8月9日(金) 午後5時30分 必着
- ◆問い合わせ 大阪狭山市教育委員会歴史文化グループ



- ◆申込み 申込書に住所・氏名・ふりがな・学年・電話番号を記入の上、市役所3階歴史文化グループに持参していただくか、申込書を切り取り、ハガキに貼付の上、下記まで郵送してください。

〒589-8501

大阪狭山市狭山1-2384-1

大阪狭山市教育委員会

歴史文化グループ

『令和元年度夏休みこども歴史塾』担当

下記のメールアドレス・FAXでも、申込を受け付けます。
氏名・ふりがな・住所を記入の上、送信してください。

メールアドレス

sayamaike@city.osakasayama.osaka.jp

FAX 072-367-6011

*申し込み時の個人情報は、受付名簿の作成、案内の通知のみに使用します。
お名前には、必ずふりがなを記入してください。

- ◆その他 受付締め切り後、受講票は、郵便でお送りします。
応募者多数の場合、抽選を行い、当選者のみ受講票を発送いたします。

- ◆問い合わせ 大阪狭山市教育委員会歴史文化グループ
072-366-0011 (内線826)

令和元年度夏休みこども歴史塾 参加申込書

保護者氏名(受付票は、保護者の方にお送りします。)

ふりがな

氏名

〔〒

〕

〔☎

〕

住所

参加希望児童(お名前に、ふりがなをご記入ください。)

ふりがな

氏名

小学校

年生

ふりがな

氏名

小学校

年生

ふりがな

氏名

小学校

年生

広報・HP等への写真掲載

許可 ・ 許可しない
どちらかに○をつけてください。



令和元年度夏休み

れき

こども歴史塾

じかんわり



	1日目	2日目	3日目
1時間目 13:30~14:15 (45分)	大阪の戦国時代	百舌鳥・古市古墳群の 世界遺産登録 -世界遺産について-	大阪のたべもの
休憩(10分)			
2時間目 14:25~15:10 (45分)	はじめての大阪人 -旧石器時代に生きた人-	百舌鳥・古市古墳群の 世界遺産登録 -百舌鳥・古市古墳群について-	竪穴住居の模型を作ろう3
休憩(5分)			
3時間目 15:15~16:00 (45分)	竪穴住居の模型を作ろう1	竪穴住居の模型を作ろう2	修了式

簡修館

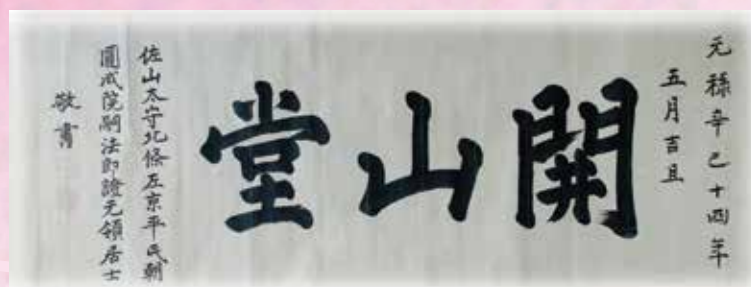
第1回

9月7日(土)

橋上 猛雄

(大阪狭山市教育委員会)

「狭山藩による武家文化と北条氏朝」



第2回

9月14日(土)

本井 優太郎

(神戸女学院大学非常勤講師)

「戦後史のなかの狭山ニュータウン」



第3回

9月28日(土)

恵谷 浩子

(奈良文化財研究所)

「水がもたらす景観とその保全」



令和元年の歴史文化セミナー簡修館(かんしゅうかん)は、「大阪狭山市歴史文化基本構想」で紹介した5つの関連文化財群の中から、「時代を超えて生き続ける 郷土の誇り狭山池」「狭山藩による武家文化」「近代化によって生まれた新たな文化遺産」の3つの文化遺産をテーマに開催します。

【時間】

午後1時30分～午後3時

(受付は午後1時から)

【対象】どなたでも

【参加費】無料

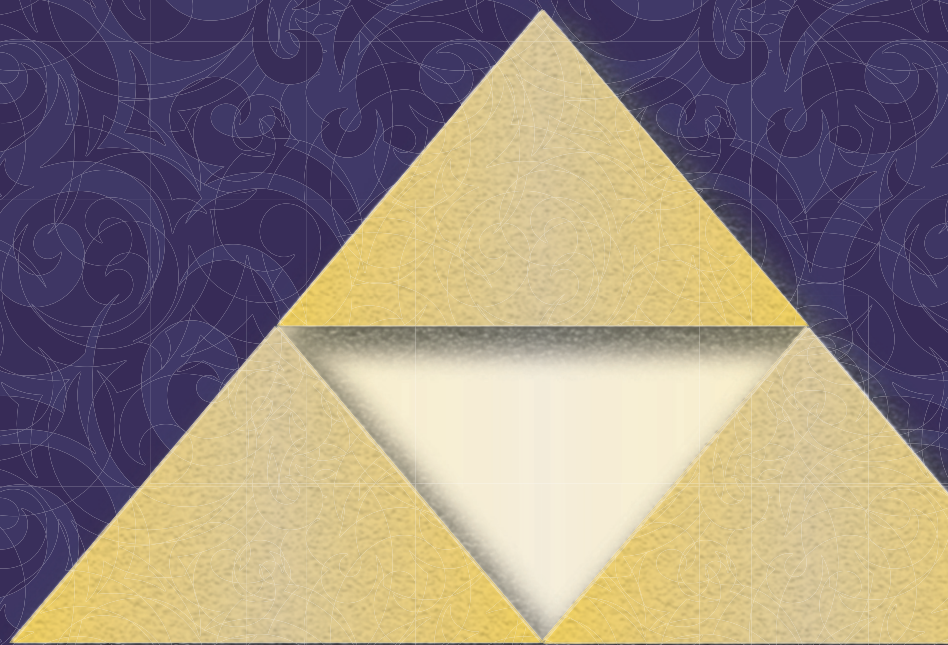
【定員】126名(当日先着順 事前申込み不要)

【会場】狭山池博物館 2階 ホール

【問い合わせ】大阪狭山市教育委員会事務局

教育部 歴史文化グループ

(TEL:072-366-0011 内線827)



狭山藩中興の祖 北条氏朝公生誕三五〇年記念

さやまのお殿さま

— 藩主北条氏の足跡 —

浄覚院殿俊甫宗秀大居士

室 久太郎氏宗女

寛永十八辛巳年七月十三日生正徳四甲午

年二月十日卒法彌長慶院殿覺林宗本大姉

女子 松 美濃守氏治室

傳在上

女子 助 久留島出雲守通貞妻

正保三丙戌年生^{月日} 寛文七丁未年六月廿

一日卒法彌法林院殿月珊精心大姉

女子 千代 舟越左門為景妻

正保四丁亥年八月二日生元禄十二己卯年

六月十五日卒法彌貞松院殿了山慧心大姉

氏朝 從五位下 遠江守 幼名龜之助 又改左京

實北條石近太夫氏利五男 家女下山姓

實母

天和三癸亥年三月廿九日父領之通養子被

天和三癸亥年三月廿九日父領之通養子被

元禄九丙子年七月廿五日家替無

日比谷屋鋪返上之同十一戌寅年領地之内

下野三千石就御用被 召上之於近江代地

大阪狭山市立郷土資料館特別展

令和元年 12月7日(土) — 令和2年 1月19日(日)

大阪府立狭山池博物館特別展示室

主催：大阪狭山市・大阪狭山市教育委員会
後援：大阪府教育委員会・南海電気鉄道株式会社・泉北高速鉄道株式会社

狭山藩中興の祖 北条氏朝公生誕三五〇年記念
大阪狭山市立郷土資料館特別展

さやまのお殿さま

— 藩主北条氏の足跡 —

令和元年 12月7日(土) - 令和2年 1月19日(日)

大阪府立狭山池博物館特別展示室

令和元年(2019)は、狭山藩中興の英主である5代藩主・北条氏朝の生誕350年にあたります。北条氏は、初代氏盛から氏恭にいたる12代260年にわたり狭山藩主を務めました。

本展示は、「さやまのお殿さま」をテーマに、市域に残された藩主関連の品々を中心に展示し、狭山藩北条氏の歴史を紹介するものです。

記念講演会

▲
第1回

令和元年12月15日(日)

「北条家の人々」

— 元禄から明和の時代に生きたお殿様と夫人の物語 —

講師：橋上猛雄(大阪狭山市教育委員会)

▲
第2回

令和元年12月21日(土)

「お殿様もつらいよ」

— ご先祖・お目見え・参勤交代・お家騒動 —

講師：藪田 貫(兵庫県立歴史博物館館長)

▲
第3回

令和2年1月11日(土)

「藩主北条氏と池守田中家文書」

講師：中山 潔(大阪府立狭山池博物館学芸員)

いずれも

【時間】13:00～15:00

【開場】12:30～

【場所】大阪府立狭山池博物館2階ホール

【定員】当日先着順
(定員126名)

展示解説

日時：会期中 毎週土曜日 11:00～12:00

(ただし、12月28日・1月4日を除く)

場所：大阪府立狭山池博物館特別展示室

所在地

〒589-0007

大阪府大阪狭山市池尻中二丁目

入館料

無料

開館時間

10:00～17:00

休館日

月曜日
(月曜日が祝休日の場合は翌日)
年末年始
(12月28日～1月4日)

交通

南海電鉄高野線「大阪狭山市」駅
下車 西へ700m

駐車場

博物館には大型バス、車いす利用者用の駐車場があります。
一般の車両は約500m西にある狭山池の北堤駐車場をご利用ください。

問い合わせ：大阪狭山市教育委員会 教育部 歴史文化グループ
072-366-0011 (内線 826)



再発見!

狭山池からのめぐみ

狭山池シンポジウム2019

令和元年

11月16日(土)

午後1時30分～午後4時30分
(午後1時開場)

SAYAKAホール 小ホール

定員200名 参加費無料

●パネリスト報告

市川 秀之
小山田 宏一

●パネルディスカッション

コーディネーター 澤田 正昭
パネリスト 市川 秀之
小山田 宏一
工楽 善通

狭山池シンポジウム 2019

狭山池は、1400年前の飛鳥時代に、水田に水を供給する灌漑施設として築造された、現存する日本最古のダム型式の溜め池です。築造以来、多くの人々によってその機能を維持、継承されてきました。現在の狭山池は、平成の改修を経て、灌漑機能と高い治水機能を併せ持った治水ダムとして生まれ変わり、整備された狭山池公園は憩いの場として活用されています。

第10回を迎える今回のシンポジウムでは、平成の改修時の調査を担当した研究者に、狭山池の土木技術と最新の研究成果を紹介していただき、狭山池の歴史と狭山池がもたらすめぐみについて改めて考えます。

令和元年 **11月16** 日(土) 午後1時30分～午後4時30分 (午後1時開場)

S SAYAKA ホール 小ホール

●プログラム

13:30 ~ 13:40 開 会

13:40 ~ 14:25 パネリスト報告

「発掘調査からみた狭山池の築造」

..... 市川 秀之

14:25 ~ 15:10 パネリスト報告

「狭山池を知り、もっと活かす」

..... 小山田 宏一

15:10 ~ 15:25 休 憩(15分)

15:25 ~ 16:30 パネルディスカッション

「狭山池からのめぐみ」

.....コーディネーター 澤田 正昭

パネリスト 市川 秀之 / 小山田 宏一 / 工楽 善通

●プロフィール

市川 秀之(いちかわ ひでゆき)

滋賀県立大学

人間文化学部地域文化学科 教授

小山田 宏一(こやまだ こういち)

奈良大学

文学部文化財学科 教授

工楽 善通(くらく よしゆき)

大阪府立狭山池博物館・

大阪狭山市立郷土資料館長

澤田 正昭(さわだ まさあき)

東北芸術工科大学

文化財保存修復研究センター長・教授

申し込み期間

令和元年 10月1日(火)～11月8日(金)

(申し込み先着順。ただし、定員に満たない場合は当日参加も可)

申し込み方法

必要事項「狭山池シンポジウム参加希望」・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記のうえ、はがき・ファクシミリ・電子メール、または歴史文化グループへ直接。

申し込み・問い合わせ先

大阪狭山市教育委員会事務局 教育部 歴史文化グループ
〒589-8501 大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地の1
TEL 072-366-0011(内線 826)／FAX 072-367-6011
E-mail sayamaike@city.osakasayama.osaka.jp

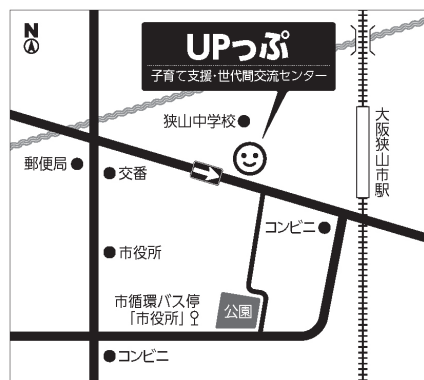


令和元年度冬休み れき し じゅく こども歴史塾



れきし 歴史にくわしい学芸員さんが、
れきし 歴史のおもしろさをおし教えてくれるよ！
みんなあつまれー！
もう 申し込み方法はチラシのウラを見てね

- ◆日 時 令和元年12月25日(水)・26日(木)
- ◆時 間 いずれも午後1時30分～午後4時
- ◆場 所 UPっぷ(子育て支援・世代間交流センター)研修室
- ◆対 象 小学4～6年生
- ◆定 員 30名 応募者多数の場合は抽選
- ◆参 加 費 無料
- ◆申込期日 令和元年12月13日(金) 午後5時30分 必着
- ◆問い合わせ 大阪狭山市教育委員会歴史文化グループ



会場に駐車場はございません。
公共交通機関をお願いします。

- ◆申込み 申込書に住所・氏名・ふりがな・学年・電話番号を記入の上、市役所 3 階歴史文化グループに持参していただくか、申込書を切り取り、ハガキに貼付の上、下記まで郵送してください。

〒589-8501

大阪狭山市狭山 1 - 2 3 8 4 - 1

大阪狭山市教育委員会

歴史文化グループ

『令和元年度冬休みこども歴史塾』担当

下記のメールアドレス・FAXでも、申込を受け付けます。
氏名・ふりがな・住所を記入の上、送信してください。

メールアドレス

sayamaike@city.osakasayama.osaka.jp

FAX **0 7 2 - 3 6 7 - 6 0 1 1**

* 申し込み時の個人情報、受付名簿の作成、案内の通知のみに使用します。
お名前には、必ずふりがなを記入してください。

- ◆その他 受付締め切り後、受講票は、郵便でお送りします。
応募者多数の場合、抽選を行い、当選者のみ受講票を発送いたします。

- ◆問い合わせ 大阪狭山市教育委員会歴史文化グループ
0 7 2 - 3 6 6 - 0 0 1 1 (内線 8 2 6)

令和元年度冬休みこども歴史塾 参加申込書

保護者氏名(受付票は、保護者の方にお送りします。)

ふりがな

氏名

〔〒

〕

〔☎

〕

住所

参加希望児童(お名前に、ふりがなをご記入ください。)

ふりがな

氏名

小学校

年生

ふりがな

氏名

小学校

年生

ふりがな

氏名

小学校

年生

広報・HP等への写真掲載

許可 ・ 許可しない

どちらかに○をつけてください。



令和元年度冬休み

れき

こども歴史塾 じかんわり



	12月25日(水)	12月26日(木)
1時間目 13:30~14:15 (45分)	災害について	考古学からみた災害と防災
休憩(10分)		
2時間目 14:25~15:10 (45分)	オンリョウ 怨霊とタタリの時代	さきおりのコースターを作ろう (2)
休憩(5分)		
3時間目 15:15~16:00 (45分)	さきおりのコースターを作ろう (1)	修了式